



和漢朗詠集註

上





卷第五 風 雲 晴 曉。竹 草

鶴 猿 管絃 舞妓。松

卷第六 文詞 遺文 酒 山 水

水 漁父 禁中 古京 故宮 故宅

仙家 道士 隱倫

和漢朗詠集註卷第五

雜風

春風暗剪庭前樹夜雨偷穿石上苔

春日山居輔倡



此詩上句心アミタノ義アリ。或説云遯齊閑覽三河胡ニ春ノ大風多シテ。塵ヲ飛ビ木ヲ抜テ名ケテ吹花劈柳ト云フト云リ。コノ柳ヲ劈心ニテ樹ヲ剪ト云ナリトイリ。ケニモトモオホヘス。是ハ諸ノ木草春風ニ依テツノグミ枝サス事ナク庭ノ梢ノ刀ニテキリトノハタルヤウニメグミタルヲ剪ト云ナリ。文選詩草縷茸雨剪齊ト云ルモ此心ナリ下句ハ雨ノツヨク降コトヲ云ハントテ。石ノ苔モウゲタリト云也。暗ニ偷モ人ニレヌノ心ナリ。山居ノ閑ニテ誰樹ヲツクロヒ苔ヲハラフモノモナク。只春風夜雨ニカセタルサミヲ云ナリ

入松易亂欲惱明君之魂流水不歸應送列子之乘

風中琴紀納言

此賦題風中琴ト云ルハ風ナド吹ク時琴ノ音ノミヒリテ聞ユル



心ナリ。上句ハ風ノ松ニ吹イル音ハ琴ノ音ナガラ。サスガニ風ナレバ  
其節奏ミタレヤスレトナリ。百詠ノ詩ニ松風入ニ夜琴トアル心ナリ。而  
又琴ニ入松曲トテアリ。明君トハ王昭君ガ本ノ名ナリレヲ。漢  
帝ノ諱ニアルニ依テ。昭君トアラタメタルナリ。胡ノ國ノエビスニ嫁  
胡塞ニ向フ時琵琶ヲ調テ心ヲナグサメシナリ。レカルニ今松風ノ  
音ミタルレハ明君ガ琵琶モヒキアハセガタクテ其魂ヲナヤミシケニ  
ト云ナリ。下句ハ列子ト云レ者ハ風ヲ乗モノニシテ吹レテ行レ人也  
流水トハ琴ノ曲ナリ。車ニモ流水ト云名ノアレハ。今流水ノ曲ヲタ  
ニ。風ノヒキソフコトヲ云シトテ。流水ノ車カヘラ子ハ列子ガ乗ヲ送  
ベレト云ナリ

漢主手中吹不駐徐君塚上扇猶懸

北風利如 保胤

此詩題ノ心ハ冬ノ風ノハゲクテ利コト劔ノ如シト云ナリ。上句ニ漢主ト  
イフハ漢ノ高祖ナリ。此帝ハ三尺ノツルギヲヒトタビサシゲ玉ニシテ

天下コトククシタガヒレトナリ。委ハ帝王ノ處ニアリ。今ノ心ハ此  
ツルギハ風ナレハ漢ノ高祖ノ手中ニモトゴリカタレト云ナリ。下ノ  
句ハ吳ノ季札ト云レ人。吳君ノ使トシテ魯ノ國ヘ行クニ道ニ徐君  
云テ徐ノ國ノ主ナリレ人ノモトニトゴレリ。徐君季札ガハキタル劔ヲ  
見テコレヲ得タク思ヘル氣色見エケレハ季札此ツルギヲ與シト思  
ドモ我カク使ヲウケ玉リテ。只今アタフルニアタハス。歸ラシ時必  
與シト思テ去ヌサテ返ル時徐君ヲ尋メレバハヤ失ニキト云ケレハ  
季札ナキカナレシテ。サテ其墓ヲ問行テ見レバ塚ニ松生タリ。季札  
思ク我始メステニ心ニユレタリレ劔ナリ。イカテカタカヘシトテ。劔ヲ  
トキテ松枝ニカケテ去ニケリ。史記ニ見タリ。是ヲ本文ニテ季  
札ガツルギハ猶今モ風ノ扇クトコロニカレリト云テ。北風ノ劔ノ如ク  
ナルコトヲ云ナリ

班姬裁扇應諷尚列子懸車不往還

清風何處 隱慶保胤



此詩題、心ハ涼キ風ノ吹ヤメルハ、イツクニ隠ル、ソトノ心ナリ。此心ヲ作  
上句ニ班姫トイフハ、班女ガ事前ニ出タリ、心ハ團雪ノ扇ヲ作テ持  
タレバ、カク炎天ノ風ナキニモ、定テホコルラント云ナリ。誇尚ハ、ホコ  
也、裁ハ素キキヌヲ裁テ扇トセシ心ナリ。下句、列子ガ車ノ事上ノ如シ  
風ノヤニ又レバ、列子ハ車ヲカケテ、羊カヘルコトナシト云ナリ。礼記  
七十ニ、而懸車ト云コトアリ。七十ノヨハヒニ、六宮ツカヘヲヤメテ、車  
榻ニ懸テ、乗アリクコトヲセヌコトアルニ依テナリ。

あさるせのうくふつまでととらぬる萩の紫さうばるのちてまう申務  
意のうく後撰意に相さ平のうきさぐやうくうきさぐさふなり  
々れむとも人の心乃秋をさうくみくうちるがむふおろし萩  
の紫のそむくとまづつうにつきてよめる萩さうばるにぞとてまう  
あさるせのうくふつまでととらぬる人いさねよげ人萩の紫さうばる  
あさるせのうくふつまでととらぬる人いさねよげ人萩の紫さうばる

かろくとまの月の身影は紅紫さうばるを山あり此のせは  
家集詞云、洗屏風のあまみちあまらるる人こととまを  
法中、法後よ、あめくとあくらまのと家集よまあり紅紫さうばる人  
人のあくらまたる肉乃洗屏風の初月とまのめより。橙  
乃紅紫もとまくなく山風のまこと物とて、たけのうき洗屏風の  
の紫氣とよくあまらる。二十回子あまも耳ふきとまを。けい  
新古今よ、あまらるるまのうきさうばるのうきさうばるのうきさう  
まのうきさうばるのうきさうばるのうきさうばるのうきさうばるの  
まのうきさうばるのうきさうばるのうきさうばるのうきさうばるの

休班湘浦雲凝鼓瑟之跡鳳去秦臺月老吹簫之地

此賦上句、心ハ堯ノ帝ニ二人ノムスメアリキ。ア子ヲバ娥皇ト云。イモト  
ヲバ女英トイヒキ。共ニ舜帝ノ后ナリ。舜隱レ玉ヒテ后コヒ奉テ湘浦

愁賦 張讀



岸ニタチテ泣ケル涙ノ竹ニカカリ。竹ノ色ニダラニソメタリ。ソレヨリ  
後ニ生出タルモ皆ニダラナリケリ。今ノ世ニ班竹トテニダラナリ竹  
彼竹ナリ。雲凝鼓瑟之跡ト云。后湘浦ニ至テ心ヲナグサメニガ爲ニ瑟  
ト云テ箏ニ似タルコトヲヒキケルナリ。鼓ノ字ヲハヒクトヨムナリ。二  
人ノ后モ隠レシカバヤガテ湘浦ニオサメタリ。今其所ヲ見ル岸ノ  
竹ハ今モニダラニテアリ。瑟ヲレラベシアト云。雲タナビキテ人ハ見ユ  
ス。是ヲ見ニ哀ナリト云。心ナリ。下句ハ秦ノ穆公ノ女ニ嬖玉ト云。人  
アリ。其比簫史ト云。人ヨク簫ヲ吹テ孔雀ヤ白鷗ト云。鳥ヲ致シ來  
ラシメタリキ穆公ムメ嬖玉ヲメアハセテ妻トナセリ。レニ嬖玉モヨク  
簫ヲ吹テ鳳凰ノ聲ヲナシケリサテ數十年簫ヲフキケルイヨク  
鳳凰ノコエヲナス其後鳳凰キタリテ其屋ノ上ニ上リリ居  
タリケリ。其故ニ此夫婦ノタメニ鳳凰ニイフウテナリ  
ツクリテスニセタリケルヨシ列仙傳ト云モノニ見エタリコレヲ秦

墓ト云。其墓ニイモセスニケル程ニ仙ニ成ニケリ。後鳳鳥來テ二人ヲ  
ノセテ去ニケリ。今其ヲ見ル鳳ハ去テアトモナシ。月ノ昔ヨリカ  
ラヌ光ニ照シテ簫ヲ吹シ跡モサビシク哀ナリトイハルナリ。月老  
タリト云。昔ヨリカハラヌ月ノスミテタケナレハ心ナリ

山遠雲埋行客跡松寒風破旅人夢

愁賦紀 齊名

此詩上句遠山ヲミルニ雲タナビキテ旅人ノアトヲ隠スナリ。下  
句ハ松風ノ寒キ聲ニ旅人ノ夢ノオドロクトナリ

盡日望雲心不繫有時見月夜方閑

閨女幽 栖元稹

此詩上句閑居ヲ盡日ニ雲ナドヲ打ナカレハ心アクカレテ繫ギ  
トメガタシト云。下句夜ニ入テ月ヲ見ルハ又夜閑テ物哀ナリト也

漢皓避秦之朝望礙孤峰之月陶朱辭越之暮眼混五湖之烟

此賦題ハ心隠ト云。隱士ナリ。賢人世ヲ背キ深山  
トニ隱居タルナリ。賢人ノ居ル處ニ其上ニ雲ノタナビクナリサハ



雲ヲ見<sup>テ</sup>隱<sup>ト</sup>見<sup>ト</sup>ハ云。上句ニ漢皓ハ漢ノ四皓也。史記ニ見セリ  
 漢ノ代ニ東表公綺里季夏黃公角里先生ト云シ四人ノ賢人アリキ  
 是ヲ漢ノ四皓ト云。老テカウヘ皓然トシロカリシカバ云ナリ。此四人  
 秦ノ始皇ノ時世ノ乱レタリシコトヲニクミテ。都ノ南ニ商洛山ト云  
 山ニ籠リシナリ。サテ商山ノ四皓ト云也。秦ノ難ヲ去テ山ニ入シカバ  
 避秦之朝トツクシリ。其上ニ雲ノタナビキテ月ヲサヘル心ナリ  
 孤峯ト云ル峯ナリ。下句陶朱ハ人ノ名ナリ。此人始メ越ノ國有  
 時名ヲ范蠡ト云キ。次ニ齊ノ國ニ至テハ陶朱公ト云キ。國ゴトニ千  
 兩ノ金ヲ滿シ人ナリ。蒙求ノ註ニ見タリ。今陶朱トアリハ齊ニ  
 アルホトノ名ナリ。越國ニアリシ時。越王勾踐ト云テ越ノ國ノ王ナ  
 リシ人ニツカヘリキ。歎ニテアリケル吳王六勢モ多ク威モマサリケ  
 ル。會稽山ト云山ニテ戰ヒケルニ。越ノ軍破テ勾踐イケドリニセシ  
 ニケリ。サレドモ范蠡ガハカリコトニテ越王ハタスカリ終ニ思ノマニ

吳王ヲウチツ。越王ノ爲ニ又ナキ者ニテアルベキヲ。猶至テ賢キ  
 人ナリケル。越王ニ書ヲ奉テ申ケルヤウ。會稽山ニテ君ノハチ  
 見タミシ時。己ハ命ヲスツベカリシカドモ。其ヲステザリシコトハカク  
 君ノ歎ヲウタントナリ。今己ニ大事ヲトゲツ。大名ノシタタタ  
 オルカラス。飛鳥ツキヌハ良弓收願ヲノミトマヲタト云テ  
 妻子ヲ將テ船一艘ニ乘テ。五湖ト云ミツウニ浮テ去ケリ。勾  
 踐ハ後ニ終ニ吳ノ爲ニウタレニケリ。史記ニ見タリ。此賦眼混五湖  
 之烟トハ見ガフ心ナリ。水烟トテ水上ニケフリヌチビノ物ナハ雲  
 ニ烟立ソヒテ眼混雜シタリト云ナリ。五湖トハ大湖丹陽湖青草  
 湖。彭蠡湖射陽湖云。

暫借崎嶇非戴石空偷峻嶮豈生松  
 夏雲多奇峯 都在中

此詩題ハ夏雲ノ立ノホルサマノ峯ノソビヘタルニ似ル心ナリ。彼淵明  
 四時吟ノ一句ナリ。上句崎嶇トハサカト云事也。暫サカシキ形



借トイヘドモ誠ニイレヲイタケル山ニアラスト云ナリ。赤石ノ  
字ヲツチトヨメル点アリ毛詩云玉山戴石トカイテ。イケ山ツ  
ヲ戴クトヨメセタルナリ。キト石トヲ通セテヨメセタルナリ。是口傳  
アリ。下句峻嶮モサカキ義ナリ。空ヲサカキサマヲヌミタレ  
ドモ。松生ヘキ山ニアラスト云ナリ。

漢帝龍顏迷所處淮王雞翅失留連

秋天無片雲以言

此詩題ハ片雲トハ只一村アル雲ナリ。秋天晴テ一村ノ雲モナ  
レト云心ナリ。上句漢帝ハ漢高祖也。此人オセ所ニ必其の上  
雲ノタナヒキレナリ。其故龍ノ子ナル故也。此人父ヲハ大公ト云キ  
母ヲハ劉媪ト云キ。其母太澤ノツ、三ニヒ子ヲミタリレニ空俄ニ曇  
テ雲クタリサカリ雷電セシカハ大公オテ見ケレハ劉媪ノ上ニ龍  
ノトツキニケルヲミタリ。其後程ナク孕テ子ヲ生其子ノ顔ニ  
龍ノ氣色アリ高鼻トテ鼻タカニ鬚鬚舞ウルハシク老ノモ、ニ

七十二ノ黒子アリ帝王ノ御顔ヲ龍顔ト云事ハ是ヨリ始レリ  
其名ヲハ劉季ト云キ。カラ世ノ人ニスキ心至テ賢カリキ。漢帝  
ナラザリレトキ。其住ケル所ハ都ノ異ニアリ。秦始皇ト申御門  
東南ニ天子ノ氣アル者アリ。其者ヲ殺サ宜ケルヲ傳聞テ劉  
季芒碭山ト云山ニカクレヌ。其上ニ五色ノ雲ノタナヒキケレバソレヲ  
見レニテ其妻呂公ハ尋行テアヒケリ。サテ秦ノ始皇隠レ王ニテ  
其子孫ホロビニシ時。劉季位ニツキテ漢高祖トイハレレナリ。委史  
記ニアリ。サレバ今此詩ハ秋ノ空晴テ雲ナケレバ漢帝ノ龍顔モ  
レレナラフレテ難尋ト云ナリ。下句淮南ト云所ノ王ニテ  
劉安ト云人アリキ。親王也。此人仙道ヲ好ニ得タリ人ナリ。其  
仙藥ツキタリレ曰ノ庭ニアリレヲ雞犬ナドノ子フリタリ。方ハ皆  
空ヲ飛事ヲ得タリトイヘリ。今此詩ハ空晴雲盡タハ淮南  
雞翅モ何ニカ留ラント云ナリ。



つそふれとてやなまらんぐうまわたうの山つきの白雲 後人不知  
首城言天なる大和乃名所也 けき天のまはらうまのかりあき  
と。あふふとそまらまきくやまぬまのまのりくつとむしてつらふこ  
びう新古今集より入まきり。彼集よりハ意のまごうて人と  
まのまふるまてつてのんこ。東野別らけうまのまのまのまの  
後るれを我んぐうはんとまのまのまのまのまのまのまのまの  
あしんとまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
んまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
こまのまの

晴 烟消門外青山近露重窓前綠竹低

晴興 師井

此詩上句心烟消又六遠千山近見元ナリ。明見六ナリ。下句  
窓前ナリ竹露ニタハミタル心ナリ

紫蓋之嶺嵐暎雲收七百里之外瀑布之泉波冷月澄四十尺

餘

山晴秋望多去 序 藤惟成

此詩序也文粹第ハニアリ。題ノ心ハ雲ナドノ

晴名ニ山ヲ見レバ秋ノ色多ク見元心ナリ。上句紫蓋之嶺ト云ハ  
唐ニ五岳トテ五ノ山アリ。其中ニ南岳ヲハ衡山ト云。此山ニ嶺アリ。  
紫蓋下名多ク天晴名時ハ白鶴二隻其上翔ト荆州記ニアリ此山  
ヨリ東南ノ方長沙ト云所マデニ七百里ノキタルナリ。サハ紫蓋  
嶺ヨリオロス嵐ニ雲盡ク晴テ。七百里ノ外マテクナク見元ワタリ  
タル心ナリ。下句瀑布泉ト云ハ瀧也。瀧ノ水ノオツルガ布ヲサラ  
タルヤウニ白キナリ。天台山ニ四十五尺ノ瀧ナルヲカク云也。四  
十尺之餘トハ五尺ヲ餘ト云ルナリ。文集云天台山上明月前  
四十五尺瀑布泉トイヘリ。是ヲ本文ニテ作ルナリ。スベテ此句  
心ハ紫蓋之嶺瀑布ノ泉ハ山心也。雲收月澄ハ晴ノ心ト秋ノ望ト作也

雲消碧落天層解風動清漪水面皺

梅雨新霽 都良香



此詩上句碧落上三トリノ空也。天層上ハソラノヨクヒテ見エト  
ヨリタルヲ天ノ公タト云ナリ。衣ヲヌキステツクハ層ノ見ユルヲ  
ナレナリ。解タリトハウラカナルヲ云ナリ。下句清漪トハキヨキ  
ナレナリ。漪ノ字ハサナミト云ナリ。初學記云水波如錦文曰漪  
イヘリ。サテ水面ハメリトハ作レナリ

雙鶴出草披霧舞孤帆連水與雲消

高天登遠  
色菅三品

此詩題ノ心空晴テ遠キ色ヲミル心ナリ。上句雙鶴ハツカヘレ  
鶴也。阜ハサトヨムナリ。鶴晴ヲヨロビテ空ハルハサハヲ出テ天  
ノホリテ舞ナリ。披霧舞トイハ此心ナリ。下句孤帆ハハルカナル  
沖ニ舟ノ帆ノ冬ヒトツ見ユルヲ云ナリ。遠キ海ノ面ニキクテ舟  
幽カニナリタルヲ雲ト消ヌハ作レナリ。與雲消ト云ニテハタル  
心アリ。此詩異本ニ霜鶴トアリ。白キ鶴ニヤ雙鶴下句ノ孤帆ニ  
對シテヨロヒカルヘシ

日高見飲溜龍昇雲不殘

曉後山川  
清江以言

此詩題心山川ハ山ト川トニア事ナクガヤウナルヲハ雙開上テ上下  
句ニ分チテ作レナリ。サレハ詩モ上句ハ山ノ晴タル心。下句ハ川ノ晴  
タル心ヲ作レナリ。上句歸嵩ハ嵩高ハ嵩山也。鶴ノサハトニ下居  
タルガ晴ヲヨロビテ嵩山ニ歸テツバサヲノミテ舞心ナリ。日高見  
上晴ノ心ナリ。嵩鶴ハ王子晋ガ古事也。王子晋ハ周靈王ノ太子  
ナリ。好テ笙ヲフキ。鳳鳴曲ヲ吹テ伊洛ト云水ノ邊ニ遊ビ道士  
浮丘公ト云モノアヒカタラヒテ。嵩山ト云山ニトニル事二十余年  
終ニ仙道ヲ得テ鶴ニ乗テ嵩山ノ西侯氏山上云山ニ往來セリ。此  
事初學記ニアリ。此ヲ歸嵩ト云ナリ。下句溜ハ溜水也。黃河ト  
云テ胡ノ國ヨリ漢ニ入ル河アリ。其故ニ濁ハ流ヲ溜ト云。秦ノ文公時黒  
スメルナリ。溜ハニルナリ。其故ニ濁ハ流ヲ溜ト云。秦ノ文公時黒  
龍終南山ヨリ出テ溜水ヲ飲キ。史記ニアリ。此ヲ飲溜ト云ナリ







アル國ナルニハヤクサリ玉ヘカニト云ハ孟嘗君が客ノ中ニ狗吠ト云モノニ  
犬ノ子ヲサセテ昭王ノ狐腋ノ裘ヲヌスミセテ昭王ノ寵愛ノ羨人ニ下々ヘ  
テ此羨人ヲシテ昭王ヲ欺申サセテ孟嘗君夜中ニ都ヲ出テ逃去ト夜  
深クシテ函谷ノ關ニ行カリヌ。關ノナラヒ鳥ノナカス限リハ關ノ戸  
ヲアケヌコトナク。關守オサヘテハ關ホドニ彼ニ千人ノ客ノ中ニ  
ヨク雞ノ子ヲスル者アリ。木ノ上ニホリテ。雞ノ鳴ニ子ヲシタリケ  
レハ關路ノ雞聞テ皆ナキニケリ。夜明ニケリトテ關ノ戸ヲ開  
ケレハ出テ歸ニケリ。史記ニアリ。是ヲ本文ニテ函谷ニ雞鳴ト云  
ナリ。和哥ニモ鳥ノソラ子ナドヨハ是ナリ

幾行南去之雁。一片西傾之月。赴征路獨行之子。旅店猶宿泣  
孤城百戰之師。胡笳未歇。曉賦 謝觀

此賦モ同ノ曉心ヲ作リ。秋ノ曉雁ノ聲ヲ聞テイクツナラニ思  
心ナリ。次ノ句ハ右明ノ月ノ西ニ傾ケルアカツキノ心ナリ。一片トハ孤

輪ノ月ナド云ル心ナリ。征路上ハ帥ノ道ナリ。子トハスベテ人ト云事  
ナリ。旅店トハ旅ノ宿ナリ。追討ノ宣言ナド承テユク將軍ノ旅亭ニ  
宿荒カ未ダトボソモ開ヌ心ナリ。孤城トハ胡ノ夷ヲセクツ城也  
秦始皇ノ時胡ノサカヒニ城ヲツキテカレヲフセギナリ。泣孤城  
百戰トハ胡國トクカフ心也。百戰百勝ト云コト孫子謀攻篇太宗  
問對ナドニアル詞ヲ用タリ。胡笳トハ胡夷ノ吹アレノ笛也。コトハ  
芦ノ葉ヲマキテ笛ト是ヲ吹テ。トキヲ作ルナリ。文選ノ註ニアリ  
曉ニフク事ナレハ未歇ト云テ曉ノ心ヲ作ルナリ

嚴粧金屋之中。青蛾正畫。麗窠瓊筵之上。紅燭空餘。同賦 同  
已上同賦也。上ノ句ニ嚴粧金屋之中トハ宮女ノイツクミカザルサ也  
初學記ニ金屋トハ居所也。漢武帝幼阿喬ト云羨女ヲ見テ君  
阿喬ヲ得バ金屋ヲ作ニコレヲオカントイヘリレコトアリ。青蛾トハ  
アソキニナリ。後宮ノ羨人曉ニ眉ヲカク心ナリ。下ノ句麗窠瓊筵トハ



酒宴ヲヤメタレ玉ノ庭ナリ。文選ノ註ニ瓊庭ハ天子群臣ト宴ス席  
ヲ云ト云ヘリ。曉ニナリテ遊ビヤミタル庭ノ上ニ燭ノキエノコリタル  
心ナリ。皆曉ノサマナリ

五聲宮漏初明後一點窓燈欲滅時

禁中夜  
作白

此詩文集第十四ニアリ。註ニ禁中夜作亮ハ白樂天ノ内裏ニ侍テ  
夜此詩ヲ作テ元九ニラクラタルナリ。上句ハ宮ノ内ニ漏刻ヲヲキ  
タレハ宮漏ト云。前ニ註ス。一夜ヲ五ニワケタレハ第五更ニナルヲ五聲  
ト云。初明ハ曉ノ心ナリ。下句燈ノ只一アルヲ一點ト云。欲滅ト云モ  
アカツキノ心ナリ

あつきのさうらうさうらうと白濁のあまそよびきこまうれせまうや其之  
ゑのちこほは横巻の宿まふ人のこころりりてとあり。さうらうの  
とまかきとこころん枕のさうらうとあり。さうらうのさうらうとあり。さうらうの  
さうらうのさうらうとあり。さうらうのさうらうとあり。さうらうのさうらうとあり。

心こぼさる拾遺集に入せり

但有雙松當砌下更無一事到心中

新昌坊  
閑居白

此詩文集二十五ニアリ。註新昌閑居トアリ。新昌所ノ名也。上句  
雙松トハオラベル松ナリ。白居易ノ家ノ前ニ松ヲ二ツチラフテウケリ  
レナリ。下句ハ世ヲ遁スハ一トノ心トマルコトナレト云ナリ

青山有雪諸松性碧落無雲稱鶴心

寄嚴堯  
猶許渾

此詩上句ニ松ヲ作故ニ此題ニ入リ。心ハ雪フリタルトキ松ノ性ハ寒ニモ  
ヲカサレカク。實ノ貞木ニテ有ケリト云コトヲソラニシラレト云也  
万木ノミドリナル時ハ松ノ徳モアラハユナリ。世ノ乱ル時賢人ノ  
アラハルニタトフル也。下句碧落ハ空ノコトナリ。鶴ハ晴ヲヨロコフ物  
ナク方云ナリ上三見タリ

琴商改曲吹烟後簫瑟催心學雨辰

松風侵秋  
菊資忠



此詩題ハ松風ニ秋ノヒキアル心ナリ。上句琴商ハ秋ノ琴ナリ  
スナハチ松風ヲ琴ニ比シテイリ。吹煙ト云モ煙トハ松ヲ云ナリ。常  
盤ナル松ノ聲モ秋風吹ハヨツ子ノヒキニカヘリトイハントテ。琴  
ニ比シテ改曲トハ云ナリ。下句簫瑟モ風聲也。樂器ニ比シテ云  
學雨トハ是モ松ノ聲ノ雨ニ似タル心ナリ。催心トハ松ノ秋風ニ雨ヲ  
學ビテラフツカラ秋ノコロヲモヨホストナリ

千丈凌雪應命嵇康之逸百步亂風誰破養由之射

納言此賦文粹第一ニアリ。題ニ柳化爲松ト云ル千丈經クル柳ハ終多  
松トナルト云事アハカク題ニ出テナリ。上句千丈ト云ル松ノ事也  
雪ヲ凌トハ雪ニモヲカサズシテニドリナルナリ。嵇康ハ人ノ名ナリ字  
ヲハ叔夜ト云晋ノ七賢ノ一人也。極テカクチヨク粧アリト人ナリ  
山濤ト云シ人。此嵇康ヲミテ嘆ソ曰嵇康ガスカタハ孤松ノヒトリタ  
テルガ如シトゾ云ケル。晋書ニアリ。仍テ方作トナリ。下句ハ柳ヲ作

リ。楚國ニ養由基ト云モノアリ。弓イル事ヨニ類ヒナカリケリ。柳ノ  
葉ヲ百歩ノ外ニ置テ矢ヲイケルニ百タビハナツニ百タビアタリケ  
リ。史記ニ見タリ。今此句ノ心ハ百歩風ニミタル。柳アリ。誰カ養由  
ガ弓イルコトヲサマタゲントナリ。破トハサマタクル心ナリ。畢竟柳ヲ  
云ミテナリ猶一説アリ口訣

九夏三伏之暑月竹含錯午之風玄冬素雪之寒朝松彭君子之德

賦河原院順 此賦題河原院トハ融ノ大臣ノ舊宅也。奥州鹽竈浦  
景ヲウツツシテトシテ面白キ所ナリシナリ。其アリサマヲ作リ。上句  
九夏トハ九旬アレハ云ナリ。九春九秋ナト云モ皆此心ナリ。三伏トハ納  
涼ノ題ノ所ニ註シ畢又暑月トハ夏ノアツキトキヲ云。錯午風トハ夏ノ  
涼キ風ナリ。文選風賦迴穴錯午ト云リ。午ハ南也。南ハ夏ノ火ナリ  
火ノ方ナハアツキナリ。錯字ハミルトヨムス。ニキ風ノ火ノ氣ニミシ  
ルナリ。或説云錯字ハアヤル義ナリ。風スシクシテ夏ヲオカト



云心ナリトモイヘリ。下句玄冬ノ上ノ字ハク白トヨム。四方ノ色ヲ云ニ黒色ハ北ナリ。四季ノ色ヲ云ニ黒ハ冬也。仍冬ニラハ玄英トイヒ玄律ナド云リ。春青夏赤秋白冬黒素雪ハ白キ雪也。松彰君子之徳ト君子ト賢カキヲウルシキ人ヲ云。世ノユルモソクズ。人ノヒカムモカクムカサルナリ。シカハ松サキ霜雪サキニモオカサレヌ事ヲ。彼君子ニ喻テカク云ルナリ。上ニモ見タリ

十八公榮霜後露一千年色雪中深

歲寒知松貞順

此詩題ハ六歳寒ノ霜雪ノフル時松ノ貞木ナル事ハシラレト云ナリ。如上。上句ニ十八公トイフハ松ノ字ノ篇ノ木ハ十八トカケリ。又公ノ字ヲシタガハタレバ松ヲ十八公ト云ナリ。丁固ト云レ人。夢ニ腹ノ上ニ松生タリト見テ。人ニイヒケルハ。松ノ字ハ十八公トカケリ。十八歳ニシテ公トトフトイヘリ。實ニ詞ノ如クナリニケリ。呉録ニ見タリ。公トハ大臣ト云ナリ。其ヨリ松ヲ十八公ト云ナリ。霜後露ト霜ヲリテノ千ナリ

寒ニ依テ貞ヲ彰スナリ。下句松ハ千歳フルモノナレバ。一千年色ト云ナリ。千歳經ト云事ハ抱朴子ト云文ニアリ

倉雨嶺松天更霽燒秋林葉火還寒

山居秋晚後江相公

此詩註ニ山居トハ山家ナリ。上句松風ノ音雨ニ似タレハ倉雨嶺松ト云ナリ。天更霽トハ雨ノ音ハストモ松風ナレバカクモラテアルト云ナリ。下句ハ紅葉ノ色火ニ似タレバ秋ヲ燒トハ云ナリ。此葉ノ火ハ還テサキキ火ニテアルト云ナリ。秋ノ氣ハ寒ケレバナリ

と記する松のふりもまらぬいひくか乃をまきりたり案年長今恙上寛平のゆけ時と云い乃とやのち合ふしめる。源宗千鶴居とあり。秋乃ハハ竟意法ト云。雪雪ふりしぬ松のまもまの理りゆつせと緑のまも毎まじりやぐん。案雅云恙乃つらもみどりおれまもそて一入まじりしとあり。案後云いま一入とを恙まかりて何ん感トあり哉乃の同じ。寛平ハ是忠親王乃二男也案のゆけ好



我みくもいさくちりねとさうのまじれひめねいさくちり  
 台今龍一のくちり人ちりとの中の秋に榮雅えつ臺江乃岩の姫ね  
 さくちり(ねん)我とさくちりくちりねとさくちりねとさくちり  
 人よといさくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 ちやあらん心とさくちり。姫ねとさくちりくちりくちりくちり  
 ひくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 樹て白の清製とくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 後と回あらんくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 拾も集神木のくちりくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 地祇ちり。或物よとくちりくちりくちりくちりくちりくちり  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日

后神物小くちりてはみくちり位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日  
 位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日な紀よ位名乃の神八日

煙葉蒙籠侵夜色風枝蕭颯欲秋聲

和令孤相  
公裁竹白

此詩文集二十六ニアリ。源州令孤相公ト云人竹ヲウヘテヤサユフ  
 詠テ七言五韻ノ詩ヲ作テ樂天ノ許ニヲクテリケル和韻ノ詩也  
 上句烟葉ハ竹ノ色ハニトリニノ煙ニ似タレハカ云ナリ。蒙籠ハ葉  
 上句テクテキキ字ナリ。侵夜色ハクラクニテ夜ニ似タルナリ。侵ハ  
 夜ヲカタメ似タル心ナリ。下句風枝ハカセニフル枝ヲ云蕭颯ハ  
 スミレ風ノコ丑ナリ



阮籍嘯場人歩月子猷看處鳥栖煙

竹枝詞 章孝標

此詩上句阮籍人名也晉代二十七人賢人アリキ心ヲ一ツテ  
アヒサナヒテ晉林ト云竹少林ニスミテ琴ヲシラヘ詩ヲウタヒ酒  
ヲ飲テ心ヲヤリツク世ヲスゴシキ是ヲ竹林ノ七賢ト云阮籍モ  
其一入ナリ七賢ト云嵇康字叔夜阮籍字嗣宗阮咸字仲容向  
秀字子期劉伶字伯倫王戎字濬仲山濤字巨源也嘯場トカカ  
月ニウツフキアリク竹ノ林ナリ人歩月ト竹ノ林ニ葉間ノ月照シ  
タル人アリクヲ月ニ歩ト云ナリ下句子猷ハ王徽之カ字也王羲之  
カ子也竹ヲ愛シタル者ナリ鳥栖烟トハ煙ハスナチ竹ヲ云ナリ子猷  
此竹ニスム鳥ヲ逍遙ノ友トセシコトアリ

晉騎兵參軍王子猷栽種此君唐太子賓客白樂天愛為吾友

修竹冬青 此詩序也文粹弟十三アリ題修竹トハ長キ竹ト云事也上句ニ晉トハ世ノ名ナリ騎兵參軍トハ官ノ名也王子猷ハ

上ニ見タリ竹ヲウヘテ愛スルアリ此君ト名ケタリレナリ下句唐モ  
世ノ名ナリ太子賓客トハ司ノ名ナリ此朝ハ春宮學士ト云春宮  
モノヲシテ奉ル司也白樂天白トハ姓也秦ノ白公ト云ト人ノ未ナリ  
カバ白ヲ姓トセリ北窓ニ竹ヲ植テ愛ノ友トセシコト文集ニアリ  
遊筍未抽鳴鳳管盤根纒點臥龍文 禁庭植竹 前中書王

季云註ニ禁庭ハ内裏ノ庭ナリ延喜ノ帝禁中ニ竹ヲ植サセ給ヒ  
ヲ前中書王ノ御覽ノ作り王ハ詩也上句遊筍トハホトバシレル  
タカチ也竹ノ子ノ纒ニ生ダルナリ鳴鳳管トハ筍ノ筍ヲ云ナリ  
昔黃帝ノ臣ニ伶倫氏ト云者崑崙麓ノ竹ヲ筍ニ作テ鳳凰ノ  
聲ヲ學ビタリ是今ノ筍ノ筍ナリ此句ノ心ハ今タカチニ生ダ  
ル筍ヲモイタヌキテサルト云ナリ管ハツ、阮云ナリ筍ノトナリ  
下句盤根トハワカカル根ナリ竹ノ根上ノ上ニ出テワカカニルカ卧  
龍ノ文ニ似タリト云ナリ未抽纒點ト云ハ今始テ植タル竹ナリ未



成長ササル心ナリ兼明親王ノ御集トハ此詩少異ナリ。本集ニ云遊  
筭纜抽鳴鳳管蟠根猶點卧龍文清涼秋月曾承露和暖春天始  
掃雲トアリ

世よふんごこのひふもまごれ竹のうきやうごふうごひとぞな  
古今難下ふく人志うと乃神あり。字承云云のひふーがこと  
世りあつことまごろふけささなれど世のうきやうごふう  
ぬまなり。異竹ハ世しつひうごふんまめ。昔ハ我まふる  
からあふたふらあり。又云このひふーげさとの世中ノ物ツ  
まごろごしてやまごろごひとろごまごろごらあらん  
ごぞねは後てあま  
時あつごまごろごれ竹のうきやうごふうごひとぞな  
けの六始よくとま性のうき。但ふまごまごれはうごまごろごのハ  
時あふハカまごまごらうらつ物あふ。竹のうきごハ時あれまごら

つごり世へ経くもけみごり乃るハ不憂るぞと也。竹のこま  
をらう感しとくあつなり。異竹ハまのあうをさうのつ  
ね乃竹をいつて。いふ多補家集うとま。新古今よ入をうり  
多補心のあとかんあはるらじ

草

沙頭雨染班班草水回風馳瑟瑟波

早春憶  
微之白

此詩文集二十三ニアリ。上句ハ沙中ヨリ草ノメクニ出タルガ春雨  
潤テ色付タル所々ニミタラニ見元由也。班々ハミダラナリ。下句  
水ノ回ニ風ノワタリテ波ノヨル心ナリ。瑟瑟ハナミノコエナリ

西施顔色今何在應在春風百草頭

春詞  
元稹

此詩西施ハ越國ニアリ。越女ノ名ナリ。此人ハ子ヲヤミテニユラヒ  
ソメタリケルガ殊ニラウタキサニテイミカリケリ。其里ニ形ミク  
キ女是ヲ見テカクスル好ナリト思テ家ニ歸ルニミ子ヲオサヘテ



肩ヲヒツメケレハ弥ミミクカリケリ。人見テ逸テアタリニモヨラサリ  
 ント。莊子ニ見タリザレハ今此詩ノ心ハ西施ガ形ハ今何カ在ト尋  
 スハ春風ノ諸草ヲ吹ナヒガシタ所ニ在ケルト云テ。古ノサレモ  
 感ナリシ呉王越王モ今ハ名ハカリニテ其愛セラレシ羨人ノ西施ガ  
 顔色モ傍タニ殘ラスシテ空キ春ノ草ノ原トナリテ物哀ナル心也  
 瓢箪屢空音滋顏淵之巷藜藿深鎖雨濕原憲之樞申文直轄

此ハ橋直轄ガ民部太輔申タル文ノ句也。瓢箪ハ瓢ナリヒサコ也  
 箪ハ竹ニテツクハ器也。皆飲物食物イル、物也。屢空ハ飲食ニ  
 ケテ彼箪瓢モナレカリレト度ニアリトナリ。顏淵孔子  
 弟子亞聖トイハレテ心賢シ女勝レタリシカトモ。身ノミツキ事  
 類ヒナカリケリ。孔子此人ヲホメテ顏淵ハ一瓢飲一箪ノ食ニス  
 キスノ陋巷トイヤキチニアレ其樂ヲ不敗トイワレトコト  
 論語ニアリ。此句ノ心ハ食物ナケレハ瓢箪ツ子ニ空ニ問人ナケレハ

草深シテ跡タエタリト云リ。藜藿ハアカサト云草也。原憲モ  
 才賢ク身貧シカリシ人也。是モ管ノ國ノ人ナリ。ヨモキノカマツタ  
 カラス兼ノトホソアダナリ。上ハ雨モリ下ハ露ウルホヒシカトモ是ヲ  
 ウレトス琴ヲシラベ歌ヲウタヒテゾアリケル。莊子ト云文有  
 此句ノ心ハ庭ノ草深ク雨トボソヲ濕テ心細キヨシナリ。直轄我  
 身ノ貧キ事ヲ顏淵原憲ニ寄テカケルナリ。八省ノ中ニ民部省  
 ハ。タミツカサトテ天下ノ戸口ヲツカサドリテ重トスル職ナレハ  
 望ニ申テカクカケルナリ。スベテ此申文ハイミヅカケル上ニ清書  
 ヲ道風ニセサセタリケレバ天曆帝是ヲ秘藏セサセ玉ヒテ。内裏  
 燒亡ノ時イテサセ玉ヒケル道ニテ。直轄ガ申文取出シタルカト御  
 車ヨリ仰せ出サレケルトカヤ

草色雪晴初布護鳥聲露暖新綿繡

春月山居 後江相公

此詩上句ハ草ノ色ハ雪晴テ後ヒコハタル心ナリ。布護ハホトコルト



ヨメリハヒコル心ナリ。六念五觀草ト云文ニモ夫周孔之教而護於  
天下トイヘリ。是モ天下ニヒロル心ナリ。下句ハ鳥ノ聲ノ露暖あたたかた  
ミニ打トケテアヨクナル心ナリ。綿蠻綿蠻ハユルクトナクカタチナリ。詩小雅

華山有馬蹄猶露傳野無人路漸滋

遠草初含  
色慶保胤

此詩題心遠キ野邊若山ナドニ草ノ萌出タルガ儘ニアラニワタ  
リタル心ナリ。上句華山ハ處名也。太華山トモ云。四方高五十  
里廣十里也。ト山海經ニ見タリ。周武王殷紂王ヲウチテ世ヲシ  
メ玉ヒテ後馬ヲ華山陽ニ放チ。牛ヲ桃源壩ニツナギシナリ。世治  
テ兵馬兵車用ルコトナカリシ故ナリ。尚書ニ見タリ。其ヲ本文ニテ  
花山ニ有馬ト作り蹄猶露ハ草ワカクシテ。馬ノヒツタモ隠スト  
云ナリ。下句ニ傳野トイフハ是モ所ノ名也。傳悦ト云シ賢人ノ籠  
居タリシ所也。其居タリシ岩屋ヲハ傳巖ト云キ。殷ノ世ニ高宗

ト申ス帝オハキキ。又ハ武丁トモ云。位ニツキテ三年マテモイハ  
ス世ノ政ヲモシタハサリシカバ。民憂申シニ我未タ攝祿ノ臣ヲ得ス  
此故ニ政スルニアタハストナシ宜ヒケル。サル間夜御夢ニカシラ白キ  
翁オヤジニイリテ世中ノ事ヲイミジク申ケレハ。夢サメテ其翁ノ形  
ヲ繪エカセテ此形ニ似タラン者ヲ尋テ一イラセヨトテ國々ニ  
廣ク尋ケル程ニ傳野ニ至テ岩屋ノ中ナル翁ニ繪圖ヲアハサ  
リケレハ。タガハサリケルニシカク帝ノニコトリヲ承テ相尋ル。汝其  
人ナリ早クマイレト云ケレハ。参リニケリ。帝ニシナハスルニ夢中ノ翁  
ツユタカハス世ノ政ヲ問セ玉ヲニ申ス事皆賢クイニシカリケレハ。大  
悦よろこむ。世王ヒテ契チテ宣ノク吾巨川ヲ渡ラハ汝ヲ以テ舟楫トセ。我菜  
羹カキヲ和共汝ヲ以テ鹽梅トセント契リ至ヒケリ。其ヨリ攝祿ノ臣ヲ  
ハ巨川ノ因ト云ヒ舟楫ノ寄トイヒ菜羹。臣トモ云ヒ鹽梅。契トモ云也  
サテ今云コノ只傳悦出テ。去ニレハ。傳野人ナレトハ云ナリ。路漸







そくろんいもうせいと下知ろんじくくのうらまの河くま

鶴

嫌小人而蹈高位鶴有乘軒張利口之覆邦家雀能穿屋

鳳賦

此賦題心諸鳥中鳳上云鳥ヲ玉ト余鳥ヲ臣下トスル

ナリ前註ス此句心少人ト愚カナル者ヲ云ナリ帝王臣六女  
ト云ハ本文アリ衛國ノキニ懿公ト云人アリキ鶴ヲ无限愛ソ五  
位ニ成テプリク時ハ車ニ乗セテトモニアリキレナリ國人是ヲ詛  
事限りナレ狄人オコリテ衛國ヲサメシ時國人助ケ救ハサリキ  
鶴コソハ君ヲタスケ奉ラメトゾ云ヲリケルサテ終ニ狄ニウタヒケ  
リ。エヒス懿公ヲ殺シ其肉ヲクラヒテワツカニ肝ヲゾノコシタリケル  
懿公臣ニ弘鹽ト云ケル者コレヲ耻テ其キモヲ取テ巴ハラヲサキテ

是ヲ収メテ死ニケリ。是ヲ主辱シル時ハ臣死スト云ナルベシ史記アリ

此句心ハ彼懿公ノ鶴ヲ車ニ乗セテ愛セラレ故國亡ヒタルコトヲ云

イニメタルナリ。軒ハ車ナリ下句ハ君子ニシテニクニル其一也。二ハ利

口邦家ヲクツカス事ヲニクムニ。鄭聲雅樂ヲミタル事ヲニクム是

タハタル聲ヲシテ正キ樂ヲミタルヲニクムトナリ。三ハ下ニ居テ上ヲ

ソシテ事ヲニクム。是ハイヤシキ者ノヨキ人ヲソシテニクムナリ。論語ニ

アリ此句心ハ雀ノ家ノム子ナトクヒミタル。利口ナル人ノ實モナキ

コトヲ辨舌ニカセテ君ニ申上ルヨリ。國家ヲ乱シクツカハスニタトヘテ

イニメタルナリ。雀屋ヲウカツ事モ本文アリ。毛詩云誰謂雀无

角能穿我屋誰謂鼠无牙能穿我墉トイナリ

同李陵之入胡但見異類似屈原之在楚衆人皆醉

鶴覆群 雞賦皇

曾甫 此賦題心ハ鷄ノムラカリ集ハ中ニ鶴ノヒリオリ心ナリ。上句

李陵ハ人名也字ヲハ少卿ト云李廣ト云將軍ノ子也漢武帝



時匈奴ト云テ胡國ノエビス漢トトリアヒシカハ漢ノ帝李陵ヲ大將軍トシ燕武ヲ副將軍トシ胡ノ國ニ遣シタリシ帝ノ軍大ニ破テ燕武ハイケドリニセラレニキ李陵ハ匈奴ノ王ニ降參ヲ乞テ隨ヒニケリ。彼胡ノ國ニ入タリシニミルトミルモノハ皆エビスノヤカラニテ李陵ニトリ都人ナリシカハカク云ナリ鶴ヲバ李陵ニタトヘ雞ヲバエビスニタトヘタルナリ。異類ト云テ吾タクヒニアラサルモノヲ云ナリ。下句ハ彼屈原ガコトハニテ衆人皆醉ヘリト作り。是モ屈原ヲ鶴ニタトヘ楚人ノ醉ガ如クナル者ヲ雞ニタトヘテ作り

聲來枕上千年鶴影落盃中五老峯

題元八  
溪居白

此詩文集十六ニアリ題元八ハ元氏ニテ弟八子ナル人也樂天カク元ハカ溪ノスミカヲ見テ作シ詩也春部ニ晚葉尚開ト云ル次ノ句也上句ハ山少峯ナドニ鳴鶴聲ヲ谷ノ杪ノ夜ト云ニテ聞ヲ聲枕上ニ來ルト云ナリ。下句ハ山里ト云テ盃ヲトラシニ山少影ノサカツキ

ウツル心ナルベシ。五老峯ハメテタキ所ナク此所ヲホメテカレニ寄テ云ナリ。昔堯ノ帝ノ首陽山ニ遊ビ玉ヒシ時五人ノ老翁アリ其上ニ遊ビキ帝是ハ賢人ナリトオホレテ召テミエント夕ニハセケルハ五ノ翁勿忽ニ飛テ峯ニホリ入ニケリ。サテ其峯ヲ五老峯ト云ナリ百詠ノ註ニ見タリ。一説ニ廬山ニ峯ノ晴タルガ五ツアリ。四時ニ雪消スレテ白頭ノゴトニ故ニ五老峯ト云トイヘリ

清唳數聲松下鶴寒光一點竹間燈

在家出  
白

此詩文集二十五ニアリ題ノ心家ニ在ナガラ出家トヒトシキ心ヲ云上句清唳トサヤケキナニタナリ。松下ニ鶴ノ聲ノサヤカニ聞ユ心ナリ下句ハ竹アル所ノ窓間ナドニ火少カニツトモセル光リノサマクモノサビレキサニナリ

雙舞庭前花落處數聲池上月明時

贈鶴詩  
劉禹錫

此詩ハ唱和集ニアリ。集ハ劉禹錫ト白樂天トククリコタヘタル詩ヲ



集名也。此詩樂天ノモト、鶴ヲ送りケル時作ルナリ。上句ハ庭ノ花ノチル所ニ鶴ノ舞心ナリ。下句ハ池ノ面ニ月ノアキラカナル時ニキリニナク心ナリ。

鶴歸舊里下今威之詞可聽龍迎新儀陶安公之駕在眼

神

策都 良香 是ハ本朝文粹弟ニニアリ 神仙ヲ題ニテ作ル策ノ文也 上句ニテ令威トハ晋ノ哀帝ノ時ノ人也。仙ヲ得テ山ニ入テ不還後ニ千歳ヲ經テ白キ鶴ト成テ舊里ニカヘリ來リタリケリ。前ニ註セテ此心ヲ作ルナリ。下句陶安公トハ人ノ名ナリ。ナラビナキ鑄冶師ニテゾアリケル。其勢天ニ通シタリケル。七月七日ニ赤龍ヲククテ此人ヲムカヘケリ。コレヲ迎新儀ト云ナリアラタナル來儀ト云心也 陶安公忽ニ仙ヲ得テカノ龍ニ乘テ飛去ニケリ。此句ハ丁令威ノ詞モ明ニキ、ツベニ。陶安公ガノリモノモ目ノ前ニアル事ナハ神仙ト云事ハ一コトナリ。イツハリニ非スト云心ナリ。

饑餓性躁念念乳老鶴心閑緩緩眠

晚春題天台山 山 都 良香

此詩註ニ晚春題天台山トアリ 晚春ハ三月ナリ天台山トハ此 庵山也。天台ノ教文此山ニ傳ルガ故ニ唐天台山ノ名ヲ此山ニ付 ナリ。上句飢餓トハ飢タルムサ、ヒナリ。ムサクビヒト、ナリ躁グウヘ 飢テイヨクサハク心ナリ。下句ハ鶴ハモトヨリノドカナルニハニ老スレバ イト閑ニ眠ルナリ。凡此句ハ射玄暉ガ敬亭山ノ詩獨鶴方朝喚 飢餓此夜啼ト云ル句ヲ本文ニテ作ルナリ

叫漢遙敬馬孤枕夢和風漫入五絃彈

霜天夜聞 鶴 順

此詩題ハ霜天トハ霜ノ降ソラナリ。鶴ハ寒ヲイタム鳥ニテ。霜ノ サル夜ハ殊ニイタミ鳴ナリ。上句漢トハアノ川ナリ空ヲイヒトナリ。孤枕トハヒトリ子ノミクヲナリ。鶴ノ聲夢ヲ敬馬ス心ナリ。下句 和風トハ鶴ノ聲ノ風ニサノヒテ聞ユル心ナリ。五絃彈トハ五絃ハイトツ イツスチカケタル琴ナリ。彈ノ字ヲハヒクトヨムナリ。文集五絃彈ニ弟











巫陽道トハ巴峽ニイタル心ナリ。巴峽猿ノ事上ニ見タリ。斷腸トイ  
タリテ悲キ心ナリ。實ニ悲キ事ハキモノキレタルヤウナルナリ。此句初  
始ニツノ字深キ味アリ。初成字ハ此景ノ面白キヲ見付タル當意ヲ  
コメタリ。始斷腸ハ只今ノ哀情ノ未曾有ナル心アルナリ

三聲後垂卿淚一葉舟中載病身舟夜贈

季子文集十五アリ。註三舟夜贈内ハ樂天此時江州ニ在リ。迂チセラルル舟  
路ニテ夜ハ北方ヘ贈ラレシ詩ナリ。上句三聲後トハ彼三峽ノ猿鳴テ  
三聲ニ至ル聞者淚沾衣ト宣都山川記ニアルコトヲ用ヒタリ。卿淚トハ  
古卿ヲコフル淚ナリ。下句一葉舟トハ只一艘アルヲ子ナリ。又舟ハ木葉  
水ニ浮レテ見テ作り出セル故ニカク云ナリトモイヘリ。病身ヲノストハ  
只今ノ樂天ノ身ノアリサマシイヘリト師説ニイヘリ

胡雁一聲秋破商客之夢巴猿三叫曉驚行人之裳山水策

此山水策文粹第ニアリ。上句ハ水ノ心也。胡雁ハ胡國ノ雁ナリ

秋ハ都ヘ來上テ五湖ニ遊ナル上ヲ飛スグルナリ。其彼水海ニウキ子  
ナトニタル商客ノ雁ノ聲ヲキテ。夢ヲ驚オス心ナリ。商客トイフハ  
アキビトノ旅行スル者ナリ。下句巴猿ノ事ハ上ニ見タリ

人烟一穗秋村僻後叫三聲曉峽深秋山閑望

此詩註秋山閑望トイヘリ。上句人烟トハ人家ヨリタツケフリナリ  
江師ハ人烟ト云事ハ葦煙ニマカフ詞也。今世ニ作ルベカラストゾイハ  
ケルニ穗トハヒトト云心ナリ。山谷モ一穗黃雲ト煙ヲ作レリ。烟ノ  
多チノホルサマ。稻ノ穗ニ似タレバナリ。僻トハ遠ク幽ナレ也。下句心上見  
タリ。曉峽ハアカツキニ峽山ニ猿ヲキク心ナリ

曉峽蘿深後一叫暮林花落鳥先啼山中感懷

此詩山中感懷ヲツクリ。上句曉ノ山ノカケ。苔チフカキニ猿ノ二聲  
サケヒタラシモノ哀ナルベキ也。下句ハユラハ林ニ花チリマカニ折。鳥  
サハホカニナキタラシ心ナリ。又一ト先ハ音對也。先字チノコエナレナリ



此句先ノ字意味深シ。此山中ノ景ニ鳥先鳴テ我感涙ヲ催ス心也  
谷靜纔聞山鳥語梯危斜踏峽猿聲送歸山僧 江相公

此詩註ハ山寺ノ僧ノ里ニ出テ山中ヘカハルニ送テ心ナリ。上句ハ谷深  
スニカニハ諱アリテ問ヒ語ラフコトモナク。只鳥ノ聲幽ニ聞エテラニ心ナリ  
下句ハ深キ山路高キ梯ヲ渡シ時。山ノカニ猿ノ鳴ハ其聲ヲ踏テ  
ルトナリ。此僧ノ歸ル山路ノサマヲ云ナリ。周魯般ト云ケル巧ニヨク  
雲梯ヲ作ルコト蒙昧ヲ註アリ。雲梯ハ高キニ上ルカケハナリ

古今能得ノ詞也。注ハ山ノ川ニモナク。ありるる日猿山のうひり  
まげふといや事と題あくとま事終終ふくるとま。注ハまといや事  
院寛平注ハまの注事。西川ハ大井河也。是昌泰元年九月十日  
みくはまの注事。大鏡ふんえたり。げ日乃こと  
病立跡猿叫山峽とつろくの題の秋まことま秋の序ハ紀實

之。此種川乃こもこまの術法より注母をひて。まことま  
とつろく夕月夜をくろの山がたりひあろ大井乃河也。ま  
注事。まことま注事。古今著書あり。まことまの心ハ榮  
雅云まじくまうらるる注事。注ハまの注事。まのうひあろ  
まことまの注事。まのうひあろ。猿叫山峽といふ題  
あり。まじくまうらるる注事。猿とまことまのまことま  
梵行ハまことまのまことま

管絃 付舞妓 文選註吹日管撫日絃トアリ笙笛箏篋スヘテ  
フキモノヲ管ト云琴瑟琵琶ナドトキモノヲナヘテ絃ト云也

舞妓ハミヒメナリ

一聲鳳管秋敬馬秦嶺之雲數拍覽愛曉送候山之月連昌宮 賦公乘億  
此賦連昌宮ト云官ノアリサマヲ作り。上句鳳管ハ簫ヲ云昔  
黃帝伶倫ヲ崑崙山ノ竹ヲキラシメテ鳳凰ノナキヲ學ブト云リ



文選註アリ今ノ簫ナレハ。秦嶺ハ秦ノ國雲深キ山ノ嶺也雲  
橫秦嶺ト諱退之モ作リ。下句數拍ハカスノ拍子也。霓裳ハ舞  
ノ曲也。葉法善ト云人。唐玄宗ヲサソヒテ月宮ニ至リテ樂  
聲ヲ聞テ歸テ製シタル樂ナリト。西清詩話ニアリ。候山ハ山名  
也。侯氏山上モ云。王子晋ト云人。仙ヲ得テサリテ後此山ニ歸リ  
來テ笙ヲフキタリシ。奥ノ仙家ノ所ニアリ。月ヲ送トハ月ヲ  
送テ此曲ヲナス心ナリ。スベテ此賦ノ心連昌宮ノ管絃ナドスルアリ  
サレテ作リ

第一第一二絃索索秋風拂松疎韻落第三第四絃冷冷夜鶴憶  
子籠中鳴第五絃聲尤掩抑瀧水凍咽流不得

此文集三樂府五絃彈之文也。五絃ハ五子絃ヲカケタル琴也  
彈字ハヒクトヨムナリ。昔舜ト云御門始テ五絃ノ琴ヲ作りタミ  
テ。南風ノ詩ヲウタヒテ五ルコト孔子家語ニアリ。長サハ三尺六寸

四分一年ノ日數三百六十四日ヲカタトリ。五ノ絃ハ木火土金水  
五行ヲ顯セリ今此句ハ其五ノ絃ノ聲ヲ形容セリ。索々トハミタ  
タルナリ。秋風ノ松ヲ拂フ聲ニ似タルトナリ。疎韻落トハヒキクモロキ  
心ナリ。百詠風ノ詩ニ松聲ハ夜琴トイリ冷々トハスサマキ良ナリ  
夜鶴ノ子ヲ思テ籠中ニナカヤウニ物哀ナル声也。文選註ニ琴ハ有  
鶴喚曲トイリ掩抑トハオホヒラサヘラレタルナリ。言ハトゴホレル也  
瀧ノ水ナドノ氷ニ合シテ心ヨクモ流ヌヤウナリト云リ。文選註ニ琴  
有流水曲トイリ

隨分管絃還自足等閑篇詠被人知

此詩文集三十四ニアリ。上句ハ衆ト樂スニアラ子ドモ。我分ニトガ  
ヒタル管絃ナレバガツテ自満足スルト云ナリ。下句ハナラサリク口サ  
ヒ三作ト詩哥モ人ニシラレホトナリト云也。等閑ハ尋常ナル心ナリ

頭吟燈下裁衣婦誤剪同心一片花



此詩夜笛ヲ聞心ヲ作ルナリ。燈下ト云ニ夜ノ心アリ。衣ヲタツ女  
笛ノ聲ニ心ヲウツシテ。一片ノ花文ナトサククト裁誤トハ。彼笛ノ落  
梅ノ曲ト同シ心ナルト云ナリ。笛ノ曲ニ落梅ノ曲トテ。梅花ノ散聲ノ  
アルナリ。サレバ此曲ヲ聞クヤカテ同シ心ニ梅花ヲキルニスルナリ。一説  
同シ心ハ梅ノ名ナリト云リ。シカレバカフズト師説ナリシ

羅綺之爲重衣妬無情於機婦管絃之在長曲怒不關於伶人

春娃無春娃無季云此文ハ内宴ノ序也。文章弟二文粹弟九ニアリ。題ハ  
氣力氣力管管春春タヲヤメノタヲヤカニ氣カナキ心ナリ。娃ハ羨女ナリ。上句羅綺ハ  
ウスモノナリ重衣ハ重キ衣也。サバカリウスキ衣ナレトモ。此羨女ノ  
爲ハ三重キ衣ナリト思ナリ。機婦ハハタヲル女ナリ。コノ羨女ノ氣  
カナキ心ハ厚ク重ク无情モヲル衣カナト。ハタヲル女ヲ妬トナリ  
下句長曲ハ管絃ノ長ク久キコトナリ。コレモ此羨女ノ舞ナド  
マフニ氣カナケハ音樂ノ長テヲハラサルコトヲイキドヨリ思フ

也俗人ト樂人ナリ。管家ノ此句ヲ其時ハカセトモ怒ノ字イカ  
ト申ケバ。此字ナラフテハヨニヲクキ文字無ナリト仰セラレケ  
ルニ。各案シケレドモ實ニナカリケルトナシ師説侍リシ

落梅曲舊唐吹雪折柳聲新

手掬烟花間理

此詩文章弟六ニアリ。題ノ意ハ花ノモトニ管絃スル心ナリ。理ノ字ハ  
カイツクロフトヨム。管絃ハニツナレバ雙開ニ作リ。上句ハ管ノ心笛  
落梅ノ曲アリ。梅花ノチルハ雪ニ似タレバ落梅ノ曲ヲ吹ハ雪ヲ吹  
テアルト云ナリ。下句ハ絃ノ心ナリ。琴ニ折柳ノ曲アリト云ナリ故  
折柳聲新ト云ナリ。言ハ柳ノ色ハ烟ニ似タレバ折柳ノ曲ヲ彈ハ烟ヲ  
ニギルニテアルトイヘリ。ステ落梅折柳ヲ以テ花間曲ヲ顯スナリ  
柳絮トテヤナギニモ花アルナリ

相如昔挑文君得莫使簾中子細聽

听彈琴高親王准

此詩相如ハ漢ノ世ノ人名也。姓ハ司馬名ハ相如字ハ長卿ト云ナリ











翰註ニ藻ハ文也ト云リ。サハ文ヲ浮藻ト云ナリ。聯翩ハ鳥ノ  
飛也。翰鳥トトブ鳥ナリ。翰字ヲトフトヨムナリ。繳トハイクル  
ミトヨム。矢ニ生絲ヲケテイルコトナリ。曾雲ハタカキ雲也。曾高也  
ト註セリ。是モ文思ノサニ來ラントスルコト。飛鳥ノイクルニカリテ  
高キ雲井ヨリオチキタルヤウナリト云ナリ。是ハ速カニ思ヒ心也  
遺文三十軸。軸軸金玉聲龍門原上土埋骨不理名。題故元少  
尹集ヲ白  
季云此詩文集九又六十八卷目故京兆元少尹集序ノナカニモアリ  
故元少尹ト故ウセタル人ナレバナリ。元氏少尹ハ京兆少尹ト云  
官也。本朝ノ左右京亮ナリ。元居敬ト云レ人ナリ。唐ノ長慶三  
年ノ冬病シテウセナントスル時其子ニ遺言シテ。吾平生詩ヲコ  
ミタリ。白樂天ハ我知音ナレバ我遺文ニ序ツクラ其本懷ナラント  
イヘリケレ。樂天ソノ序ヲカキテ此詩ヲカキソヘラレシナリ。二  
首ノウチノ其一ナリ。是文集ニアリテ江師ノ見出玉ヘル説ナリ

詩ノ心ハ元少尹カ集ハ三十卷アバ遺文三十軸ト云也。軸ハ金玉  
玉聲トハ彼集ヲホムル心ナリ。每卷吟詠スレ金玉聲アリト云  
ナリ。カク云コトハ本文アリ。孫興公ト云レ人ノ天台賦ヲ作テ  
友人范榮期ニカタリテ云ク。ロニニ是ヲ地ニナゲヨ金玉聲ア  
レシト云レヨリ。文章ノ目出キヲバ金玉聲アリト云ナリ。龍  
門ノ所ノ名也。元少尹ヲ龍門原ノ上ニ葬シタリケルナリ。サテ  
龍門原上土ニカハ子ヲバ埋ミタレドモ名ハ埋ズ。今ニテモ世ニ聞  
リト云ナリ。

言語巧偷鸚鵡舌文章分得鳳凰毛

贈薛濤  
元稹

此註薛濤ハ人ノ名ナリ。此詩ハ文ノメテタキコトヲ羨タルナリ。上  
句ハ詞ノ巧ニナルコトヲ鸚鵡ノモノ云ヤウナリト云也。鸚鵡一名秦  
吉了トイヘリ。礼記鸚鵡能言不離飛鳥トアリ。下句文章ノ  
イロハタルサニ鳳凰ノ毛ニ似タリト云也。百詠鳳詩云。五色成文



章トイヘリ。鳳凰ニ仁義礼智信ノ五常ノ文ノアルトナリ。今彼文章ヲコレニ譬言タルナリ

錦帳曉開雲母殿白珠秋寫水精盤

讀韓侍即及弟詩章孝標

此ハ及第ノ詩ヲホムトアリ。上句ハ文章ノカザリイロヘタルコトヲ殿ノ内ニ錦帳ヲハルカ曉ニ開ケル様也ト云ナリ。雲母ハ玉名ナリ。下句ハ文体ノアザヤカニキヨキ事。白珠ヲ水精盤ニツレ入ルヤウナリト云ナリ。秋ハ淨クサヤケキ時ナハカク云ナリ

昨日山中之木材取諸已今日庭前之花詞慙老人

雨來花自濕詩

此ハ詩序也。此句ハ題ノ心ニアラヌ序者ノ自謙ノ句也。上句山中ノ木ハ本文ヲ作り。莊子ニ匠石ト云ケルタクニ弟子ト共ニ山路ヲ過シ道ノホトリニ木アリ。弟子是ヲ伐トスルニ匠石不材ノ木ナリトテキラズナリ又。不材ナルハ材木ニナラヌト云ナリ。是ヲ後ニ弟子昨日山中木不材終天年ト云

コトアル也サハ身不戈ニ尋テ云ルナリ。下句ハ本文ニ非ズ。今アル事ニ付テ畢下ノヨシヲ云ナリ。今日庭前花ヲ題ニテ作り出ス序ノ詞ハ人ニハツト云ナリ

王朗八葉之孫披徐詹事之舊草江淹一時之友集范別駕之遺文

敬公集序源順

此詩文粹弟八ニアリ。尊敬ガ集序也。尊敬トハ橋在列ガ出家ノ名也。順カノ尊敬ガ作文ヲ集テ其序ヲ作

ニ昔モ人ノ作ヲ其友ノヒロヒアツメシ事ハアリキト云テ。其例ヲヒクナリ。上句王朗ハ八葉トハ昔ヨリ未勅也。或記ニ後漢書徐詹事ト云ケル人ノ作りタルナリ。其八代ノ末孫ニテ王朗ト云ケル人ノ彼後漢書ノ註ヲ作りタリケハカク云ナリト云可尋之。舊草ハフク草シラケルフニト云ナリ。文ノ下ガキヲ草藁ト云心也。下句江淹字文通コレモ友アリシ人也。范氏ノ別駕タル人友ニテアリケルガ彼別駕隱テ後カレガ作りヲケル文ヲ集メタリシガ



カク云ルナリ。徐ト范トハ姓也。詹事別駕ハ官ノ名ナリ

陳孔璋詞空愈病馬相如賦只凌雲

題英明集ヲ答源亞將  
橋尊敬

此詩註源亞將ハ英明ノコト也。源ハ姓也。亞將トハ中將ヲ云也  
亞字ハツクトヨム。大將ニツク心ナリ。英明朝臣贈答スル和辭ノ詩  
ナリ。上句陳孔璋ト人ノ名也。陳琳字孔璋ト云フ。此人檄ト云フ  
文ヲヨク作りケリ。檄トハ謀叛ノ者アル時。國ニオホセテ彼ヲ討  
シムル文ノ名ナリ。魏ノ曹操ト云人。國ノ政ヲトリケルニ南陽張  
繡ト云人。謀叛ヲ起シ曹操ニシタガハサリケル。曹操ヤスカラズ  
思テ陳琳ヲシテ檄ヲツクラセケリ。其間曹操ハ頭風ト云病ヲ  
シケルニ陳琳檄ヲ作りテ見セケル。曹操是ヲ見テ病忽  
イユケリ。曹公ヨロビテ數万匹ノキヌヲナシトラセケルト魏志  
見テ下句ニ馬相如トハ前管絃ノ所ニアリ。司馬相如ナリ。上  
林賦ヲ作りシ。漢ノ武帝見玉ヒテ此賦陵雲勢トアリト感

玉ヒケルトカヤ。此句ハ陳琳カ檄病ヲイヤレ相如ガ賦ノ雲ヲ陵  
モ物ノ數ナラス英明文章ナヲ勝タリト云ナリ。空只ノ二字  
カレハハナヲ文ヲトリト云心ナリ

贈爵新恩銘刻石獲麟後集世知丘

過管丞相廣拜  
安樂寺ヲ以言

此詩ハ管家筑紫ニテ失タニヒケル後。夜一夜ノ中ニ北野多ノ松  
生シテ移リ住玉ヒケリ。朝家此神ヲオソヒテ廟社ヲ立テ祝  
奉ラル。今ノ北野ノ宮是也。以言ハツクレノ唐ニテ此詩ヲ作也。上  
句贈爵トハ無人ニ官位ヲ贈ラ云ナリ。昔管丞相延喜。賢キ  
御代ニ仕テ右大臣ニテ成玉ヘリシ。其時ノ左大臣時平ノ君  
ア人ノ御子ナク止事ナクオセシカトモ。御年ワツカニ九身  
ノ戈モ世ノオキテモ右大臣ニ及ヒ玉ハサリケリ。管家御年五  
十七八歳。戈世ニ勝レ御心オキテモ事ノ外ニ賢クオハシケレバ。世  
コソテ重ク思ヒキコエ。帝モ殊ニイニシト思召ケルニ時平公定國



良言集註  
四  
卿菅根朝臣ナド同心ニ讒シ申シケレハ昌泰四年正月廿五日  
日太宰權帥ニウツシ筑紫太宰府ニ流シツカハス深キ怨ニ沈テ  
延喜三年二月廿五日五十九ニテウセ玉ヒニキ其後火雷天  
神トナリテ都ヲ度々ヤキ玉ヒシカバ一條院御時正暦四  
年五月廿九日贈左大臣ノ宣命クダリ同キ閏十月廿九日贈  
太政大臣正一位ノ宣命カサ子テクダリケリ其贈爵ノ文ヲ  
石ニキサニテ御廟ニタテラシタルコトナリ新恩トハアラタナル  
君恩ト云心ナリ銘トハ墓志銘トテ其人ノ生先世ニ功アルコトヲ  
ヒシテ其廬ニウツムコトナリ下句ハ菅家筑紫ニテ作り玉ヘル  
詩ヲ集メテ一卷トセリ是ヲ菅家後集ト云今後集ト云ハ  
是也此ヲ獲麟ノ後集ト云事ハ本文アリ麟ト云獸ハ世ニコ  
ナルモノニテ聖人ノ時ナラテハ出ザルナリシカニ昔曾哀公ト  
云キ三西方ニカリシ玉ヒケルニ麟ト云獸ヲ得タリ孔子是ヲ聞

テ春秋ト云文ヲ作テ西狩獲麟ト云一句ニ筆ヲナゲテ  
其後何コトヲモカキタマハザリシガテ年七十三ニテウセタマ  
ヘリソレニヨシテ菅家後集ヲ獲麟ノ後集ト云ナリ世知五トハ  
世人此後集ヲ見テ孔子ニコトナラヌ人ニテオハシケリトヒ  
ト云ナリ兵孔子ノ名ナリ頂ノナカクホナルコト尼丘山ト云山ノ  
ヤウニオハシケレバ方名テ云ナリ兵人ノ名ナレドモフカトヨスバ石  
對サリ爵ハクラ井ナレドモスメト云ヨテアハ麟ニ對セルナリ  
ソノ事乃ち世々たりせむいづる人のことのもうれいしは  
古今席幕ふたの字より人あつむど乃移し是意のあつむるは  
人のまはれあつむるをいひしは又相のあつむるをいひしは  
あつむるのまはれあつむるのまはれあつむる人のあつむる  
まはれあつむるをいひしは

酒



新豊酒色清冷鸚鵡盃之中長樂歌聲幽咽鳳凰管之裏

送友人歸大梁賦公乘億 此賦上句新豊大梁名也酒アル處ナリ。史記

項羽本紀云沛公招沛父老置酒于新豊鴻門云鸚鵡盃ハサカ

ツキノ名ナリ海中ニ貝アリ其形鸚鵡ニ似タリ其セナカラテ

盃ニナルヲ鸚鵡盃ト云清冷ハキヨクイサキヨキ兒ナリ下句

長樂トハ宮ノ名ナリ此宮ニテ歌ヲウタヒナリ高祖本記

云高祖置酒於長樂宮酒酣發歌トイリ酣ハ酒ノサカリナル

形ナリ鳳凰管トハ笛也幽咽ハムセブナリ歌ノコソノ樂曲ニ

フナリ冷字ハ常ニ他聲也而ヲ清冷若ハ冷々ト云時ハ平聲

ナリ

晋建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌傳以於世唐太子賓客白

樂天亦嗜酒作酒功贊以繼之

序酒功贊 此文集第七十有

樂天酒功贊トテ酒ヲホメタル文ヲ作ラタル其序也上句晋ハ

世ノ名ナリ建威將軍ハツカサノ名也武官ナルベシ劉伯倫ハ

人ノ名ナリ劉伶字伯倫晋七賢其一也此人無限酒ヲ好テ

酒德頌ト云文ヲ作り是モ酒ノ徳ヲホメタル文ナリ文選ニ

アリ其ヲ一ナビテ白樂天モ酒功贊ト云文ヲ作テ酒ノ徳

ヲホメタルトナリ唐モ世ノ名也太子賓客トイフハ官ノ名ナリ

此朝ノ春官ヲ學士ニアタレリ春官ニ物ヲ教ヘ奉ル司也白樂

天ノ官ナリ

臨風抄秋樹對酒長年人醉只如霜葉雖紅不是春

此詩五言文集ノ十七ニアリ題ノ霜葉ハ紅葉ヲ云也抄秋トハ

コスロノアキトヨム九月ナリ風ニ臨タル暮秋ノ樹ト酒ニ向ル年

タケタル人ト是ヲタクラブルニ醉ノ只ハ紅葉ノ色ニ似テ同ク紅ナレ

ドモ二月花ニアラス紅葉モ秋ノ末ニテ散ヌベシ吾身モ老果テ生

疾ノホドモナキト云ナリ



生計拋來詩是業家園忘却酒為卿

送蕭處士  
遊黔南白

此詩前二委多<sup>レ</sup>シラハス。此句是胸句也。上句生計ハ世ヲスゴス  
分リコトナリ。今ハ世ヲノカシタル身ト成テ。世ヲ渡ルワカハ皆ナ  
ゲステ。詩ツクル事ヲノミ業トスルト云ナリ。下句ハ我家園事モ  
皆忘タリ。醉少里ヲノミゾスミカトスルト云ナリ。常ニ酒ウチ飲テ  
ノミアル心ナリ

茶能散悶為功淺管道忘憂得力微

賞酒之  
詩白

此詩ハ唱和集ニアリ。唱和集ハ劉禹錫ト白樂天ト互ニ作りカセ  
詩ナリ。文集ハ第二十六ニアリ。是ハ鏡換盃ト云題ヲ以テ。白樂  
天ノ作り王ルナリ。此題ハ此詩全篇ニ見ユナリ。此句ハ酒  
徳ヲホシトテ。世ニ用ヒラタル藥ノ徳ヲ舉テ其モシク酒不及云  
ナリ。上句ハ茶ト云草ハ煩悶トイキレモタエテ。心地ノウチ乱レタ  
ルヲナス藥ナリ本草ニアリ。悶字ハコロモタエスト云ナリ。茶ハヨク

モタエヲナラレテイミシケドモ。其功アサシ。酒ナニスグレタルト云也  
下句ハ萱トハ萱草ナリ。和名ハワスレ草ト云。一名ハ忘憂草ト云ラ  
毛詩ニ見タリ。此草ヲ服スハ憂ヲワスルナリ。今言ハ萱草ウレヘ  
ヲ忘トイヘトモ其功ナラ少シ。酒ナニ其ニモ勝レタルト云ナリ。酒  
忘憂トモ云ナリ。此詩七言八句也。欲將珠匣青銅鏡換取金樽  
白玉卮。鏡裏老來無避處。樽前愁至有消時。茶能散悶為功淺。萱  
導忘憂得力遲。不似杜康神用速。纔分一盞便開眉。トアリ

若使榮期兼解醉應言四樂不三

琴酒  
白

此詩文集第二十六ニアリ。琴酒ヲ題其中心今此句ハ酒ヲホメタル  
ナリ。榮期トハ榮啓期先生トテ孔子同時ノ賢人也。孔子泰山ト云  
山ニ遊ビ玉ニ榮啓期ニアヒ玉ヘリ。榮期琴ヲヒキ歌ヲウタヒテア  
リ。方バ孔子問テ云先生何事ヲカ樂トスルト榮啓期答テ云我  
三樂アリ。天ヨク物ヲナセリ。其中ニ尤貴ハ人ナリ。我ステニ



ト、ナレハ是一ツノ樂ニナリ。男ハタフトク女ハイヤシ我既ニ男ナリ  
 是ニツクタクシヒナリ。人生日月不見襜褕不見者アリ。我ステニ  
 年九十三ナリ。是三ツクタクシヒナリトイヘリ。列士ニ見タリ此日月ヲ  
 不見トイハレ腹ノ中ニテ死ス者日月日光ヲ見ズレテヤミヌルヲ云  
 ナリ。襜褕ハムツキナリ。生オチテヤカテウセタルモノハムツキヲモ  
 不見ト云ナリ。世ハカルモノモアルニ我ハ九十余ニテナガラヘタル是樂  
 ナリト云ナリ。是ヲ榮啓期ガ三樂ト云。今此句ハ酒ヲ醉卿  
 入ヌバ不淺タノヒヒヲナス物ナルニ榮啓期ニ此醉ノ心ヲシラセタリ  
 共四ノ樂ニナリトイハレ。三樂ハヨモイハカラレト云ナリ。問列士  
 如ナラハ榮期孔子ニアヘリ。孔子ハ周ノ第廿三四ノ主靈王廿一年  
 庚戌ノ年生テ。敬王四十一年壬戌ノ歳七十二ニテウセタヘリ  
 然レ漢記云榮啓期先生漢ノ時司空ト云ツカサニナレリ。王莽ガ  
 難ヲ去テ山林ニ入テ身終ルマデ不出更始三年ニ丞相ノ位ヲ

サツケニトテムカヘラルレドモ終ニ出スト云リ。更始三年ト云後  
 漢光武皇帝元年ト酉年也。孔子ノ隱レ玉ル壬戌年ヨリ更  
 始三年ト云ハ五百四箇年ナリ。榮啓期命長シト云トモサレモ  
 不可有如何答二人一名ニヤ。或人云榮期若是仙人歟トイヘリ  
 醉卿氏之國四時獨誇溫和之天酒泉郡之民一項未知厚陰  
 之地暖寒從飲酒 是詩序也題ハアタカニサムキコトハ酒ヲ飲  
 時オホクスタナキニヨルト云心ナリ。上句醉卿氏之國ハ酒宴所  
 ヲ云ニヤ。酒ヲノム所ヲ醉卿ト云ニ付テ又國トモ云ナルベシ。溫和天  
 ハアタカニヤラカナル空ト云コトナリ。春ソラヲ云ナリ。醉卿ニ入  
 スバ秋冬ノサムキヲリモ春ノ天ノヤウニアタカカニオホユト云ナリ。下  
 句ニ酒泉郡ハ漢武帝大初元年ニヒラキ玉ヘル郡也。酒ノ多キ所ヲ  
 郡ニナシテ酒泉郡ト云ナリ。其酒宴ノ人ヲ民ト云ナリ。彼郡ノ人  
 一項ホドモサエコホル地ヲ不知ト云ナリ。一項ハ六ラクヲ云也。酒

一項ホドモサエコホル地ヲ不知ト云ナリ。一項ハ六ラクヲ云也。酒



陰上サエクモル義ナリ。左傳云。涇寒ト出タリ。涇陰モ其心ト同シ。  
莫前上林苑之所厭。含旨消酒。是下若村之所傳。頌甚義。

内宴詩序

後江相公

己内宴詩序ナリ。文粹第十ニアリ。題晴添草

樹光春初。天氣ヤラキ晴タルニ。草モ木モヲリニアヒテ。各イロツ

キアヘル心ナリ。此序ニ題ノ心ヲカケルニ。天初晴。曉日漸照。當林園之

改色。翫草樹之添光。トイヘリ。今此句ハ題ノ心ニアラス。彼内宴アリ

サマヲ作ルナリ。不心得者。是ヲ題ニハセントスルハイヤシ。上句上林

苑ト云ハ。漢武帝ノ内裏ノホトリニ開キタマヘリ。苑ノ名ナリ。コノ苑

サマノクモアリ。文選上林苑賦云。於是平盧。櫛夏。熟黃。甘橙

榛。枇杷。檉。柿。檉。柰。厚樸。椶櫚。棗。楊。梅。櫻。桃。蒲。萄。隱。夫。莫。補。蒼。選。離。支。

果。本名。コレヲ此禁中ノ御園ニ比シテ作ラセタリシナリ。今此席ニ

イヒラヌクタモノ。アルハ。彼上林園ヨリタテミツヒト云ナリ。含旨消

上。菓。ヲ。ホメタルナリ。甘棠ト云テ。味ヒアマクイニ。キナク。含。則。チ

キユナリ。ソレヲ含消梨ト云ナリ。下句下若村ト云ハ。酒ヲ作  
所ノ名也。此酒下若村ヨリ傳ヘモチマイルカト云也。傾トハ酒ヲ  
ウケテ。飲ヲ云ナリ。

先逢阮籍為卿導。漸就劉伶問土風。

入醉卿贈納  
宣撫相公

此詩註入醉卿トイハル上ニ云ルヤウニ。醉ヲ卿ニタトヘテ。其醉卿ニ

入ルアリサマヲ作ナリ。上句阮籍上晋七賢其一也。上ニ註ガ如

彼人イニキ上ナリケレバ。ガレヲ道ノヒトノ醉卿ハ入ラント云也

卿導ハミキトナリ。劉伶コレモ七賢ノ内也。上ニ云セリ。是モ酒ヲ

愛セシ人ナク。彼ニ付テエテ。卿ノ風俗ヲハ問ト云ナリ。世ノコトワ

サニモ入。境問風ヲイヘリ。文選見タリ。土風ハ其國ノ風俗ヲ云也

長隣建德非行步。境接無何便坐忘。

中勸王

此詩上句邑トハムラトヨメリ。スナハ千醉卿ヲ云也。建德ハ德ヲ多ク  
ルトヨム。其名メテタキ所ナク。コニ用ヒタリ。醉卿ハ建德隣ヲシメタル



所ニテナニアルト云ナリ非行歩ハアニヲハコビテ行至ルハアラズ酒  
醉<sup>ラ</sup>處則チソトチリ上云也。下句无何トイハ無何有卿也。莊子曰我  
有大樹謂之精<sup>サ</sup>種無何有卿トアリコレ莊子が寓言也。何カアラニ  
ト云心ナリ。醉卿ノサカヒハ无何ノサトニアヒニビトリト云也。接ハニ  
ナリ坐忘ハ井ナカラ忘<sup>ル</sup>ト云事也。酒ニエヒスハ万ツノ事ヲ皆忘  
ナリ坐亡モ莊子ノ字也。接ツヒテトモヨメリ

王勣卿霞上浪脆嵇康山雪逐流飛 醉看落水花慶保胤

此詩王勣モ酒好ム人ナク王勣卿トスナク醉卿ヲ云也。霞トハ  
花ヲイヘルナリ。花モ霞モ紅ナル者ナクナリ。詩ノナラヒナリ。然レハ  
王勣卿霞上ハエヒノサトノ花ト云心ナリ。浪脆ハ水ニ落ル心ナリ  
水岸ヲメグリヒルガリテ脆<sup>カ</sup>多落ナリ。下句嵇康トハ是モ酒ヲ愛  
セ人ナク醉ノ所ヲ云上テ嵇康山ト云ナリ。カツ又嵇康ガ醉多ク  
玉山ノニサニクツレトスルカコトト世説ニイヘリ。雪トハ花ナリ。花ヲハ紅ニ

白<sup>ク</sup>モ作ル事ナク上云霞ニヨセ是ハ雪ニヨセテ云也。逐流飛トハ水ニ  
落ル心ナリ。然レ霞ト雪ト花ヲツクルナリ。王勣ト嵇康醉ノ心ナリ  
浪ト流ハ水ノ心ナリ

るののちちこころをいさづきのりりもをひておねとちりを結室  
拾<sup>ヒ</sup>遺<sup>ル</sup>秋<sup>ノ</sup>詞<sup>を</sup>をふあつりを人のりもふりりくれバ女  
として画<sup>サ</sup>よひるもそく物<sup>キ</sup>をりくれむとありやとこハ小<sup>ツ</sup>さなり  
大<sup>シ</sup>掌<sup>シ</sup>舎<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>掌<sup>シ</sup>をある時<sup>ニ</sup>をさるも神<sup>ノ</sup>の役<sup>ヲ</sup>をすみのふ  
人の事<sup>を</sup>をりしひるハ日<sup>ノ</sup>蔭<sup>ナリ</sup>なり。ひりハ日<sup>ノ</sup>影<sup>ノ</sup>のうづらとよま  
と羽<sup>ハ</sup>いより。中<sup>ニ</sup>比<sup>シ</sup>より系<sup>ス</sup>るもそく神<sup>ノ</sup>の附<sup>ク</sup>冠<sup>ヲ</sup>をふくくる物<sup>ニ</sup>  
けち拾<sup>ヒ</sup>遺<sup>ル</sup>をさるもそく日<sup>ノ</sup>影<sup>ノ</sup>もそくともをむて松<sup>ノ</sup>やまの心の  
るの乃月トハ物<sup>ノ</sup>目<sup>ノ</sup>の物<sup>ニ</sup>比<sup>ス</sup>ある月をうつりけさるもそくをふひ  
くもて目<sup>ノ</sup>影<sup>ノ</sup>のそく物<sup>ノ</sup>をくれはるののちちとるこ

山



黛色迥臨蒼海上 泉聲遙落白雲中

題百丈山 賀蘭暹

此詩上句黛色上遠山ノ色ノ黛ニ似タ六即遠山ヲサシテ黛色トイヘリ 迥臨蒼海上上ハルカニ海ノオモテヲ見ワタ共雲井ノウチニホノ見元山ノニヌニ似タルサマナリ下句泉上瀧也高平山ヨリ落ル瀧ハ白雲中ヨリオツルトナリ

勝地本來無定主 大都山屬愛山人

遊雲居寺贈穆三十六地圭白

此詩文集第十三ニアリ註雲居寺ト云ハ唐三雲居寺ト云キテアルニコソ居易其所ニ遊テ是一絶ノ詩ヲ作ナリ勝地ハ景氣スグレタ所ヲ云ナリ言ハ勝地ニ誰ヲ主ト定ムベキアラズタゞ賞之翫之人ゾ主ニテハアルト云ナリ愛山人ハ論語智者樂水仁者樂山ト云ヘルコトバヲ用ヒラタルベシ

夜鶴眠驚松月苦曉聽飛落峽烟寒

題造嶺暮烟都在中

此詩松月苦サヤカナラト云点ハ暮烟ニ望テ夜月ノ松ヲ照ス時節

思ヒヤルナリ。苦クリト云時ハ只松月ノ物サビク心クルキ心ニテナリ此点優ナルニヤ下句曉聽ハアカツキノムサビナリ世俗野衾ト云モノナリ。峽烟ハ山ノカヒニ雲霧ナドノタナヒク也寒モサカラント曉ノ氣色ヲ思ヒヤル点アリ所好ニシタガフベシトソ

紈扇拋來青黛露羅帷卷却翠屏明

遠山暮烟 後中書王

此詩題心遠キ山ニ夕烟晴テ山ノ形ノ明ニ見元心ナリ上句紈扇白キキヌヒテハル扇ヲ云也カ班女ガ扇ノ詩ニ新裂齊紈素ト云ル詞ヲ用玉リ拋來ト云女扇ヲモテカホヲサシカクシタルガ其扇ヲナゲステタ六青キニヌミ明ニ元ニヨソヘタルナリ紈扇ハ暮烟ヲタ上タル也拋來ハ斂也青黛遠山也下句羅帷ハウスマクカタビラ也是モ烟ニタ上テ卷却ト云マクコトナリ烟ノハルコト也翠屏ハニトリノ色ナル屏風也遙山ニタトフル也古詩ニモ山似屏風江似簾トイヘリ是ハ句詩ニテ句々玄妙ナルモノナリ具明親玉



アルカナカノ秀逸トナリ 烟望四山向暮程紅煙歛盡遠空晴  
東唯任殘陽照嶺上何妨滿月生紈扇拋來青黛露羅帷卷却翠  
屏明秋深眼路無纖靄其奈香爐舊日名

衆籟曉興林頂老群源暮叩谷心寒

秋聲多在 山以言

此詩題心秋風寒スサミキ事ハイツクハアトモ山ニ多シト云也  
上句衆籟ト籟ハフキモノトヨムナリ。莊子ニ天籟地籟人籟ト云コト  
アリ。衆籟ト是モ莊子ニ地籟則衆籟是已トアル心ナリ風作テ  
岩穴枯木ノアナナドナリヒクヲ衆籟ト云ナリ。林頂老ト秋ノ風  
木葉ナド色カカリ吹チラサレナドレタル心ナリ。下句群源ト此谷ヲ  
谷ノ流ノユフクレガタニ岩ヲウツヲトナドノ聞エタルナリ。谷心ト夕ニ  
ソコナリ潭心地心ト云如クテ是ヲイハ衆ト群ト二字ハ題多  
心ナリ。林頂谷心ト山ノ心也老寒ト二字ハ秋ノ心也。籟興源叩ハ聲也  
有人云此詩ハ後中書王以言トアラソヒ五ハル詩也。後中書王ノ

鹿鳴猿叫孤雲慘葉落泉飛片月殘トナリケル此詩難陳セシ  
トカヤ

名はうして山をうらむるなり物日夕日のまはるは  
拾遺雜下にき覺之の初也。三言ハ大和ト三言トハ名をうり  
あつと山を望むるなり。只お日夕日のまはるなりと三言トハ  
うらむるなり

このおれありのちう山おひよりりあやみのまはるつもうらむる感  
拾遺雜下にハ又文字をうれむとあり。おれりの冬のうつもうらむ  
あり。おれりあつとハ雲をまきびき事ハ事也。越乃白山ハ雲  
音あつと山歌白とゆへおれりなりとはある也。おれりの春ハ  
山積るふ言とそへるなり。又文字氣氣面白とあり  
みまを木の葉をうらむる言とせむとわらふ言とあり。道盛  
拾遺冬洞をふ入道持取家乃屏風ト云。法興院持取道盛云



乃家の屏風のありての海にそそりてきりていかに  
あつたるなりや

山水

泰山不讓土壤故能成其高河海不厭細流故能成其深

史記李斯  
上秦王書

此史記文也。秦始皇客ヲ集ルコトヲ好ミシニ讓公

ト云人奏シテコトヲ止メタリ。トカハ李斯此文ヲサケゲテ止ガラザル

コトヲイサメテナリ。此朗詠ニテハ上句山心也泰山ハ唐ニアル高山也

岱宗トモイヘリ。杜子美が岱宗夫何如齊魯青未了ト作ル山也。ト

壤ハツチクニナリ。言ハガカリ大ナル山モツチクニスコレキヲモキラハズ

ツル故ニ大ニ成リト云也。文集二十二云千里始足下高山起微

塵トイヘリ。下句ハ水心ナリ。河海ハホソキ流ヲ不厭トイフオケメ各

故ニ底深キウミカハトハ成ナリ。古今序云浮天之波起於一滴之

露云今案此文ハ文選三十九ニモアリ。泰山不讓土壤故能

成其大河海不擇細流故能就其深トイヘリ

巴猿一叫停舟於明月峽之邊胡馬忽嘶失路於黃砂磧之裏

愁賦 公 此賦ウヘノ心ヲ作リ。上句巴猿ハ巴峽ノ猿也上ニ見エ

タリ明月峽ハ彼三峡ノ一ツ也巴峽巫峽明月峽是三峡カハ山

南峯ニ石壁アリカハヤウニタスル岩ナリ。其岩ニマロナル穴アリ

形子圓月ノ如シ仍テ其所ヲ明月峽ト云ナリ。今言ハ巴峽猿ノ一

聲カナクナキタラシヲリ。明月峽ノ邊ニ舟ヲトメテウチナカメタ

ラシ心中ノナクサメカカラス心ナリ。下句胡馬ハ胡狄ノ國ノ馬

也カノ國ノ馬ノ都ニ來ルハ故卿ヲ思テ北風フケハイバフ也胡馬

依北風越鳥巢南枝云 黃砂磧ハ是モ胡地ナリ。邊去ハツチモ

石モ黃ナリ仍黃砂磧ト云也言ハ胡塞ナトニウチ分ヒテ旅行

セニ馬ノ嘶ニツケテ胡國ノコヒキ折筈路ヲ失テイツチ行ベトモ

オホエガラシ是ウヘノ心ナルベシ



礙日暮山青簇簇浸秋水白茫茫

登西樓憶  
行簡白

此詩文集第十六ニアリ題ノ行簡ハ居易カ友也西樓ニホリテ  
ハカニナガメヤリテ行簡ヲオモ出テ作ラタレナリスベテ此句ハ  
眺望ノ景氣ヲ作り上ハ山下ハ水也簇々上ハ山ノムラカリツラナレ  
ル良也遠山ノサマナリ茫茫上ハ水ノヒロキ良也

漁舟火影寒燒浪驛路鈴聲夜過山

秋夜宿臨江  
杜荀鶴

此詩註臨江驛上ハムヤチノ名也タビノヤトナルベシ上句漁舟ハ海  
人ノスナドリスル舟ナリスナドリス六夜舟ニカリ火ヲタキテコギ  
イツバ火ノ影ニツキテ魚ノヨリクルヲ取ナリ寒燒浪上ハ水ニツル  
火ノミナソコニモユカケ浪ヲヤクヤウニ見ユナリ折シモ秋ナク寒キ  
トハ云ナリ下句驛路トハムヤツタテ路ナリ鈴ノ聲上ハ勅使ナド  
ニテ他國へ行人ニ天子ヨリルレシノ鈴ヲ玉ルナリソレヲ鈴印トモ驛  
鈴トモ云ナリ其鈴ノ聲ノ夜山路ヲスグル心ナリ昔將門カ東ニテ

謀叛オコシタリケルニ宇治民部卿忠文ヲ大將軍トシテ追討

ニ下サレケルニ駿河國清見カ開ニヤドリテ海邊ナク軍監清原

滋藤ト云ケル者夜更テ此句ヲ詠シタリケル將軍聞テ涙ヲ

ナシナガレケルト大江時棟カ記ニアリ云杜荀鶴ハ字ハ彦之杜牧

之微子也池州人也其州ニ有九華山ヨリテ九華山人ト云翰林學

士知制誥ナト云官ニナレリ

山似屏風江似簾印舫來往月明中

泛舟劉禹錫

此詩ハ山ハ形ハ畫カケル屏風ヲ立タシ似タリ江ノ色ハ簾ヲムレテ  
ルニ似タリト云ナリ簾上ハ竹ノムコトナリ其色青クハ江ノ色ニヨソタ  
ルナリ山モ水モカクオカキ所ヲ月ノ明ナル夜フナバタヲ夕ヒテ  
アソヒアリク心ナリ印舫ハ楚辭ニ漁父カ滄浪ノ水トウタヘ所ニアル  
字ナリ

草木扶疎春風梳山祇之髮照電遊戯秋水養河伯之民

山水策  
江澄明

宋字氏舊藏傳  
定賴書朗詠三  
養字二作



此策ノ文。上句扶疎トハ文選註ニ枝葉四布貞ナリ。山祇ハヤミツニ  
ヨム。即山神也。草木ノ風ニ打ナダラフ。是ナシ春風ノヤミメノカミヲケ  
ツルニテアルト云ナリ。下句鼈トハ大ナルカメナリ。河伯トハ河ノ神也  
魚鼈ハカノ神ノタメニ民ノ如シ然ハウヲカメノ遊ビ戯ルハ秋ノ水ノ  
河ノ神ノ民ヲヤシクニテアルトイヘリ。晏子春秋ト云文ニ山祇以  
草木爲髮以土石爲身河伯以水爲國以魚鼈爲民トイヘリ其詞  
ヲ用テ對トサリ

韓康獨往之栖花藥如舊范蠡扁舟之泊烟波惟新 周前

是上ト同ニ策ノ文也。上句韓康トハ人名ナリ。字ヲハ伯休ト云後  
漢ノ代人也。仙道ヲ得テ山ニ入テ藥ヲ取テ長安ノ市ニウリケリ  
後漢書ニ見タリ。韓康獨往之栖トハ山ノ心ナリ。花藥如舊トハ其人ハ  
今アトモ見エ子トモ。藥ハ昔ニカラス今モアリト云也。下句水ヲツ  
ケリ范蠡トハ上ノ雲ノ題ニイヘル陶朱公コナリ。彼所ヲ見ルヘシ

山復山何工削成青巖之形水復水誰家流出碧潭之色

同前

此モ上ト同ニ策ノ文也。上句ハ山々ノ形ノイヒラズオカクテ青巖  
ノ形ニテケツルヤウナルハイカナルタクミヲシラゾト云也。青巖トハ  
コケオヒタル岩ナリ。下句水ノ色ノミドリ深テヤ井ナドク色ヤウ  
ナル。誰ガ家ノ深殿ノ深出セルソト云ナリ。碧潭トハミドリニスメル  
ノチ也。山ヲ削成ト云コトハ初學記ニアリ。藍染水ヲコトハ白氏詞  
ニテ上ニ出タリ

山郵遠樹雲開處海岸孤村日霽時

春日送別直轄

此詩註ニ春日送別トアレドモ此句別ヲ送ル心ハ不見タ所ノ景氣  
ヲ作ルナルベシ。上句山郵トハ音由驛也。又ビヤトヨムナリ。山路ノ旅屋  
ナトノ遠キ梢ノ雲ノ末ニ見元心ナリ。下句海ノホトリ濱ノキハ離テ  
ツアル村里ノ日ノ晴タルニ見元心ナリ

山成向背斜陽裏水似廻流迅瀨間

春日山居後江相公







句洲ハ水ノ中ニ土チヲスラレテニトナリタルナリ。芳カハ芳カ蔞カ蔞カヲ向ヘテ水草萌出タルナリ。杜若トヤクハ和名ニカキツバタト云ナリ下句沙暖上云モ春心ナリ。鴛鴦モウワウノ長閑トヨホニ眠ユリ井イタルサニ春メケルヤ

帆開青草湖中去衣濕黃梅雨裡行

送客之詞 湖南白

此詩文集十六ニアリ。上句帆開ハ帆ホヲアゲタル也。青草湖ハ所名ナリ。坤元録云洞庭湖舊名青草湖黃帝昔於此誅蚩尤トイヘリ。下句衣濕ハコロモノヌルナリ。黃梅雨ハ五月雨ヲ云フ。初學記云梅ヒメ菰コ雨江東呼日黃梅雨トイヘリ。意ハ梅ノキハ三ミ葉エフノ落時ノ雨也。樂天湖西ウエニ客ヲクラレケル時五月雨ナドノフリケルニ云

水驛路穿兒店月花船棹入女湖春

送劉郎中赴蕪州 任蕪州白

此詩文集十二送劉郎中力赴蕪州アリ。上句水驛路ハ水邊ノミヤツタヒノ路也。兒店ハ所ノ名也。兒店月ノ光ノニキタルニ其所ヲ

ユテハ月ノ光ヲ穿ウカッニテアリト云也。下句花船ハハナヤカニカザレ舟ナリ。女湖ハ所ノ名ナリ。女湖ノアリサニ春メキタルニ舟ニサヲサニテ其所ヘコキユケバ春ニ入ニテアリト云ナリ。兒店女湖皆蕪州ノ道路ナルベシ。春ニ入ト作ルキ規模ト云ツベシ。

菰蘆投酌春濃酒解艦舟流夜漲灘

戲贈漁家 杜荀鶴

此詩上句菰蘆投ハコモアレナドクニテ投ヒニ作ルナリ。ソレニテ春ノ酒ヲクムト云ナリ。濃ハ酒ノ味ノコキコトナリ。是ハ漁父ノ家ニ井ルホドノ休ナリ。下句解艦ハ小舟ナリ。漁父ノ夜ルチイサキ舟ナヒ乗テハヤセラクタル心ナリ。

閑居屬於誰人紫宸殿之本主也秋水見於何處朱雀院之新家也。  
閑居樂秋 菅 此詩序菅家文章六ニアリ。処喜ノ御時太上

天皇朱雀院ニ閑居樂秋水ト云題ニテ文會させ玉フニ菅家其日序者ニテカク作り玉ヘルナリ。上句閑居屬於誰人トイハ閑居



誰人ノシ玉フソト云ハト云也。御位ヲユヅラセ玉ヒテ。シヅカニオハレ  
 ミスヲ閑居ト云ナリ。紫宸殿本主ト太上天皇也。本帝位ニシク  
 ケル時ハ紫宸殿ノ主ナレナリ。寛平帝ノ御コトナルベシ。下句秋水ハ  
 見於何處トハ秋水ノオモシロク見ユル何所ゾト也。此朱雀院新ナル  
 家ニナレトイハントテ也。題ノ心ヲ作ナリ。朱雀院ト三條ノ北朱  
 雀西ニアリ。御殿ノ名ナリ。世々帝オリ井ノ後御座セシ所トナリ  
 垂釣者不得幽暗思浮遊之有意移棹者唯聞雁遙感旅宿之  
 隨時菅前此句ハ彼朱雀院ノ庭ノ池ニ月卿雲客遊興ニテ樂  
 秋水ヲ作ラレタリ上句浮遊トハウカヒヨク魚ヲ云ナリ。三六ツリ  
 フタル、人モシ井テ幽フトラズニテ。幽モカク浮遊シテ水ヲタノムハ  
 ゲモ心アリケリト思ト也。畢竟我此水ヲ樂ム心ヨリ思ハサニナリ  
 下句移棹トハ舟ニリテサヲサレコスサニナリ。折レモ秋ノ雁ノ鳴ワタル  
 フ聞テ旅ノ空ヲリヲ得タルコトヲ感ズルト也。是モ舟ノリ雁ヲ

聞テ秋ノ水ヲタノム心ナルベシ。此序本朝文粹ニモ入タリ

沙頭刻印鷗遊處水底摸書雁度時

題洞庭湖 後江相公

此詩上句ハカメノアソヒアリケル跡ハ印ヲラレタルヤウナレバカクイハ  
 下句ハ雁ノ飛ワタル影ノ水ノ底ニウツルガ書ヲウツシタルヤウニ見也

日脚波平孤嶋暮風頭岸遠客帆寒

海濱書懷 平仇韓

此詩註ハ濱邊ニテ旅ノ思ヒヲカキツクルトナリ。上句ハユフ日サ  
 ス海ノオモテシヅカニテ。遙ニ見ユルオキノ嶋ヤ、暮フカクナリユク心也  
 日脚トハ日ノアチナリ。孤嶋トハヒトツアル嶋ナリ。下句ハ風吹タルヲリ  
 フレ岸ハルカニシテ。旅ノ子ヲモノサヒキ心ナリ。風頭ハカセノ吹尸  
 タリナリ。客帆トハタビ人ノ舟ト云コトナリ。

とあり。竟意云水ようほりあつねと花のくんととあり。棠  
 右今ま相ちよみのかりふ梅のまゝのさかりあつとあり  
 とあり。竟意云水ようほりあつねと花のくんととあり。棠







袋袋双紙フノカセ

禁中

蔡雍日門閣有禁非待御史之臣不得妄入故曰禁中也。ヲルヤケノ門ニ禁制アリテ。妄リ六人ヲイレザル

ノコロナリ

鳳池後面新秋月龍閣前頭薄暮山

題東北舊院  
小寄亭一白

此詩上句鳳池ハ文選十五註鳳池者中書省也トアリ。本朝ノ中務省也。後面ハ池ウレ早リ。下句龍閣ハ内裏也。漢高祖龍顔アリシヨリ天子ノ御コトニ龍ノ字ヲ用テナリ。閣ハ官門ヲ云ナリ。サレ天子ノ居所ヲ龍閣トイヘリ。前頭ハ其ニ云ナリ薄暮ハラケレナリ。内裏ノニヨリハルカニ暮山ノ見元心ナリ

秋月高懸空碧外仙郎靜翫禁闈間

八月十五日夜聞崔大負外翰林獨對酒翫月因懷禁中清景白

此詩文集第十四アリ。八月十五夜ニ崔大負外ト云人獨直シテ酒ヲ吞月ヲモテアソブヲ聞テ。樂天ノ送ラレシ詩也。空碧ハミル

空也。仙郎ハ内裏ニ直スル人ヲ云。崔大負外ヲサシテ云也。禁闈ハ内裏也。闈ハ宮中ノ小門也。彼人内裏ニテ獨宿直シテ月ヲモテアソブ

ヲ思ヒヤルナリ

三十仙人誰得聽含元殿角管絃聲

及弟日報破  
東平章孝標

此詩及第ノ日詩也。人多クアレドモ我獨此管絃ヲ聞ト云テ。及第シスミタルコトヲ喜ブ心ナリ。含元殿ハ禁中ノ御殿ノ名也

雞人曉唱聲驚明王之眠鳧鐘夜鳴響徹暗天之聽

漏刻策  
都良香

此策ノ文也。漏刻ヲ題トセリ。上句雞人ハ漏刻ヲ司ル人ヲ云ナリ。文集十七三曉日雞人傳漏箭トアリ。漏刻ヲ守リテ時ヲ奏ス故ニ云トリニナゾラヘテ雞人ト云リ。明王是ヲ聞食テ子フリヲオトロカシモフナリ。下句鳧鐘ハ鐘ヲ云ナリ。内裏ニ鐘ヲカケテ是ヲウツニソクヒキクヲキソラニ聞テ云ナリ。徹ストハ耳ニ徹シテキコユコロナリ











臺傾滑石猶殘砌簾榭真珠不滿鈎

題于家公  
主舊宅白

此詩題公主上帝御スメヲ云ナリ家公主ト云皇女ノ舊宅ナル  
ベレ上句臺カブレ傾テ僅ニイリスエバカリ残りト云也下句真珠ヲ  
以テカサレ簾ノ夕ヘテ殘スクチク成ヌハ鈎ニモミタズト云ナリ鈎翠  
簾ヲマキテカケラクツリハリノゴトクナルモノナリ

強吳滅兮有荆棘姑蘇臺之露漙漙秦衰兮無虎狼感陽宮  
之烟片片賦河原院 此賦文粹第一卷ニアリ河原院上嵯峨

天皇ノ御子ニ勲大臣ト云レノ家也大臣ウセ玉ヒテ後其所アリ  
シカサマノ風流モ皆アラヌサミニナリタリヲ見テ貫之  
君マサテ烟夕エニ鹽竈ノ浦サビヒクモ見エワタルカナ トナシ讀ム  
サテ其所ヲ大臣ノ孫ニ安法公ト云レノ傳テスミケルニ順ガ安法ハ  
モトニ行テコノ賦ヲ作りケルトゾ順ガ作中ニ此句ナシ第一ノ  
秀句ニテ侍ナル注帥モ順ガ身ニ取テハ過分句也トゾイハケル

上句強吳ト云ナリ文選吳強大夫差以敗トイヘリ以之爲本文

方ハ強吳ト云ナリ文選吳強大夫差以敗トイヘリ以之爲本文  
強吳ト作ト歟姑蘇臺ト彼吳王ノ作り王ル臺也吳王夫差越  
王勾踐ニホホサレテ其臺アヒテ荆棘ノミケル心ナリ漙々ハ露ノ  
シケキ負ナリ夫差勾踐ノ事上ノ要所ニアリ下句暴秦ト秦  
始皇也暴惡ノ人ナリト云也史記ノ始皇本記ニ始皇  
ノ事ヲイハルニ以暴虐爲始トイリ不教而殺謂之虐不戒視成  
謂之暴古キコトヲ皆ウヒテ我代ノ始タラント云テ書籍ヲ  
ヤキ博士ヲ失ヒニ依テ始皇ト云フ玄中記見タリ始皇凶暴ト云  
コレニ依テ暴秦ト作ルナリ無虎狼ト秦始皇ヲハ虎狼ニタトタル  
ナリ史記第六云秦王爲人蜂準ト鼻タク長目アリ擊鳥膺  
戮聲虎狼ノ心アリトイヘリ感陽宮ト秦始皇ノ作りレ官也城タリ  
三百餘里アリトカヤ此宮ニ長生殿アリ此殿ニ不老門アリ金沙



瑠璃砂真珠砂ナドヲシケリ。金ヲ以テ日ヲ作り銀ヲモテ月ヲ作テ仙洞ノサマヲ學ベリ。カクアリシカドモ始皇隠レシカベイクホトヲ不經ノ項羽ノ軍兵乱入テ寶ヲキホヒトリ官ニ火ヲ放チ去ル三月カ間烟火タエカリキ。烟片々トハコレヲ云ナリ

老鶴從來仙洞駕寒雲在昔坡樓衣

嵯峨舊院 即事 菅

此詩文章五テアリ。註ニ嵯峨舊院ト嵯峨天皇ノスセ玉ヒケル宮ノアレタルヲ作ラセ玉ヒケルナリ。上句ハ故宮ニ老鶴ノコリス多是昔ノ仙洞ノ乗物ナラト云ナリ。院ノ御所ヲハ仙宮ニ譬言クク云也仙人ハ鶴ヲ駕ニスバナリ。下句故宮ニ雲ヲタナヒケルヲ見テ是昔ノ妓樓ノ衣ノ残ルカト云也妓樓ト妓ハ舞姫也舞姫ノノボリテトヲ樓ヲ坡樓ト云ナリ

孤花暮露啼殘粉暮鳥栖風守廢籬

題后妃舊院 良春道

此詩ハ后妃ノ舊院ナド故宮ノ心ナルト云ナリ。上句孤花トハ只一房閑花也孤葉ナド云カ如シ。花ノ露ヲ羨人ハ涕ニヨソヘテハカケノ俤ヲ思ヘルナリ。殘粉トハ花ノ色ノ紅ナルヲ女ノ顔ニ紅粉ノホドニスニタトヘテ云リ。此花ノソツカニユリタル色ヲ殘粉ト云ナルト云ナリ。下句暮鳥栖風トハ風ニナラズ枝ナドニスヲ云リ。廢籬トハヤフレタルガキナリ。主ハナクシテユフベノ鳥ノミアレタルニセヲハ守ルトイヘリ

荒籬見露秋蘭泣深洞聞風老檜悲

秋ヨ過仁和寺ヲ源英明

此詩ハ仁和寺寛平御門ノ故宮ノアテ古キ檜木ノ一本タテリケルヲ英明中將見テ昔ヲ思ヒヤリテ作りタルト云。上句アレタルガキニ秋蘭ノ露ニウルホヘルサマ昔ヲユヒテナケルカト見ル也下句フカキホラノウチニ年ヘタル木ノカセニモ悲ノ聲ニ聞テ也  
向晚簾頭生白露終宵床底見青天  
屋舎壞ニ善幸相  
此詩ハ我ス屋ノヤフレタルヲ作り上句ハ棟ノ板間アレテユフテ露簾ニ傳フ心也。下句ハ寢屋モアラハニ成ヌ床ノ上ニアリナカラ



空ヲ見ルト云也床底ハ夕、床ノ上ノ心ナリ。三善宰相ハ清行ノ也  
 志あるてあきまふ宿乃極るより舟のともふと神をわきま  
 古今六帖の秋ありわれ極るより舟のともふと神をわきま  
 こと物たれど月のともふと神をわきまなりとあり。古と肉裏乃  
 四夜キヤキヤの月と見えらるゝと感慨あさうとてゆるあや  
 今集表傷洞アキキヤを河系乃左のわかいまうちまうの男まうりて  
 此らみの家まうりてまうのふとわきまことわきのまをまうり  
 くらと見えらるゝとありとわきまの秋。みまのまをまうりて  
 春あままうりまままである。牡丹花まうりまうりまうり  
 浦のまびりまふまうり。拾芥を河系乃左のわかいまうちまう  
 室園八町まうり極る大匠のまうり。わきまのまをまうりまうり  
 まうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

つひへはらるゝや人のかこま今を花をむくありし一糸拵改  
 心への花をむくありし人もいまはるるなりて。四夜の花はまふ  
 くらと見えらるゝとありてまうりまうりまうりまうりまうり  
 極るまうり。九糸右丞相拵補公の一男伊尹とヤせらるり。三糸九  
 歳まうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

仙家

付道士 隠倫  
 仙家者仙官也釋名云老而不死曰仙仙  
 僊也遷入山也故制字人傍山也道士ハ仙術ヲ學ビ  
 得タル人也隠倫ハ賢人ノ世ヲ背テ山谷ニ隱居スルヲ云也

壺中天地乾坤外夢裏身名且暮間

元稹

此詩ハ世ノ無常ヲ作ナリ。上句壺中ハ昔唐長安ノ市ニ常藥  
 フウル老翁アリ其形イトアヤクテ不戴價價ヲ貳ヒセスハ藥ヲ  
 ウルニフタ、直ヲ論サリシナリ。是何ナル人ト云コトヲ不知其時  
 汝南ノ費長房ト云者市採トテ市ノ奉行ニテアリ。樓ノ上ニテ



遊見六此翁一壺ヲオヒテ日ノ暮時人ニシラスシテ壺ノ中ニ  
ヲドリ入ケリ。長房タビく是ヲ見テ。夕人ニアラフスト知テ尋子  
行テ逢テ懇ニウヤミヒツク食物ナドスメケルニ翁ヨロコブコト无限  
タクシテ年モ經ヌハ翁長房ニ告テ云。君ニ金骨ノ相アリ。仙道ヲ  
學フニタヘタリ。日クシテ人ナカラシ時來ルニト云ケレハ。教ノ如ク日クシテ  
行タリケレハ。我ニ隨テ壺ノ中ニヲドリイヒト云テ。翁前ニヲドリ入ヌ  
長房ツギキテヲトリ入タレハ。壺ノ内ニ天地日月アリ。宮殿樓閣イ  
シラスメテタシ。侍者數千人アリテ老公ヲタヌケウヤミヘリ。長房樂  
ニアキミチナガラ。猶古卿ヲ忘ルガタク思ヘルサミ見エケレハ。老公其氣  
色ヲ見テ告テ云ク。君カレト思ハハ。是ニ乘テ行クヘトテ。アノ竹竿  
ヲ與ヘタリケレハ。長房コノ竹ノ杖ニ乘テ長安ニ歸ニケリ。此竹ヲ葛  
陂ト云所ノ水中ニナゲステタリケレハ。杖忽ニ青キ龍トナリテ天  
ニ昇テ去ニケリ。以上神仙傳ニ見タリ。然ハ此句心ハ壺公カツボノ

ウチノ天地ハ神仙ノ境ニ常盤ナレドモ。此乾坤ノ外ナレバ尋子イタラ  
ニ事カタシト云ナリ。乾坤ハ天地也。乾ハ天ノ德。坤ハ地ノ德也。周易  
委下句ハ此世ヲ夢ニタテテ且暮ヲモシリカクシトイヘリ。夢ニ喻  
コトハ莊子カ胡蝶ヨリオコリ。猶内典ニ多シ。唯識論云。未得真覺  
恒處夢中。故佛說爲生死長夜トイヘリ。又一說コハ幽栖ノ詩ナレハ。此  
山居ノ深キ住居ヲ彼壺中ノ天地ニ比シテ是世上乾坤ノ外ト觀スル  
也。此境界ニラフレハ。ウキ世ノ身名ハ只夢ノ間ハカナキコトヨト云ル  
心ナリ。此後ノ説ヲ可用也。

藥爐有火丹應伏雲確無人水自春

此詩文集第十七アリ。註郭道云。下云ハ郭氏ニテ仙術ヲ學ビシ  
人ナルヘシ。白氏其所ヲタツスルニ主ハアガハ其栖ガカリヲニテ作レル  
心ナリ。上句藥爐ハ藥ヲ煨スル爐也。俗ハルト云フ即爐ノ字ヲル  
ヨメルナリ。丹應伏ハ丹ハ藥ノ名ナリ。金液丹銀丹トテアル也。コニ



燼ノアル郭道士ノ丹藥ヲ燼シテ丸、所ナレベト云リ。下句雲碓  
 上碓ノ字カラウストヨムナリ。仙人ノ器ナレ寄雲雲碓ト云ナリ  
 或人云雲母ツク碓ナレ雲碓ト云リ。文集ノ自註ニ廬山中雲母  
 多シ故ニ以水碓擣鍊俗呼テ水碓トスト云云水自春トハ谷ノ水ヲミ  
 カケテ雲母ノ碓ヲツカヒルコトナリ。郭道士見ズシテ水ノミツ  
 ウスツキケルト云ナリ。雲母モ仙人ノ藥ニ入物ナレハコミカクイヘリ  
**山底採薇雲不獸洞中栽樹鶴先知**  
温庭均  
 此詩ハ隱者ノアリサマヲ作ルナリ。上句山底トハ山ノフモト也。雲不  
 獸トハ雲ヲ山ノ基ニナシテワラヒヨルヲモ不獸トナリ。世上ト替テ山  
 居ノ心ニミナルサマヲ云リ。下句洞中ニ木ヲウツハ鶴ナシ先知テ我  
 スニカト思ヘルト云リ。是モ世間トカハリテミツカナルサマヲ云ナリ  
**三壺雲浮七萬里之程分浪五城霞時十二樓之掩掃天**  
神仙第 都良香  
 此ハ策文也神仙ヲ題トセリ。上句三壺トハ王子年カ拾

遺記云三壺者則海中三山也一曰方壺二曰蓬壺三曰瀛壺山  
 形似壺故曰壺也云七萬里トハ此三山相去事各七萬里ナレナリ  
 下句五城十二樓トハ史記第十二云方士有言黃帝時爲五城十  
 二樓應邵曰崑崙山圖五城十二樓仙人常所居也云都言海中  
 三山ハ七萬里ノ波ヲヘダテアリ。仙官ノ五城十二樓霞ニソバチテ  
 ツラナレリ。然ル神仙ト云事不空トコトニアル事也ト云ナリ。一点雲  
 如浮ノ霞ノ妙ソバダテリト云。此ハ彼三壺ノ海中ニ浮ヒ五城ノ山  
 中ニ峙テテ雲霞ニタ上テイヘル心ナリ

**奇犬吠花聲流於紅桃之浦驚風振葉香分於紫桂之林**  
前同  
 此ハ上下同策文也。上句奇犬ハアヤキイヌナリ。晉大康年中武陵  
 云所ノ人照ヲツルトテ溪ニソヒテ行ケル程ニ桃花ノ流ケハ其源ヲ  
 尋テ登ルニ又コト木モナクテ岸ノ左右ニモノ木カキリナツツラナレリ  
 其花ノモトニ龍鱗文虎豹ノミタラナルコトクナル犬ノアヤキコトヒテ此



武陵ノ人ニホヘタリ。サテカク桃源ノ人ニ相タリケル。此所ニ秦乱ヲサケ來テ數百年ヲヘタリケル由ヲイリケル由。桃源記ニ見タリ。此心ヲ作ルナリ。下句驚風トイハアラキ風ヲ云也。紫桂トハ仙宮ニラサキナルカツラノアルナリ。昔桂父ト云モノ天台ノ石橋ヲ渡ラズニ空ニ聲アリテ汝ハ此橋ヲ渡ベキ謂アラストイヘリ。サテ此山ニ夕ク住フ仙術ヲ行ヒテ後ニ桂花ノニホヒヲ聞テ仙道ヲ得タリシコトアリ。其心ヲ作レリトゾ。

謬入仙家雖為半日之客恐歸舊里纔逢七世之孫。二條院 妄落花

亂舞衣序 此詩序也。二條院ニテ文會侍リケルニ朝綱其日序者ニテ作レナリ。此六題ノ心ニ非ズ。今日此院ニ入サレテマイレコトヲ彼仙家ニ入テ半日ノ客タルニタトフルナリ。半日客トハ本文也。晉ノ世ニ王質ト云モノ木ヲキラシテ斧ヲ腰ニサシテ石室山ト云フ山ニ入ヌ。山中ニワラハノアマタ圍碁ヲウチテ井タリケルヲ王質

暫ク見居タル程ニ日暮方ニナリヌ。サテカハラントスルニシテノ柄杓タリ驚キテ家ニカヘリ見ル。我スミレ所トモオホエズカヘリ。人ニ上レヒルモノナレ。人有テ告テ云。我先祖ニ山ニ入テカハラサリケル人アリケリト聞傳ヘタリ。君若其人カヘリ云リヨク尋ヌ。七世ノ孫ニテアリケリ。述異記ニ見タリ。又或ハ劉晨阮肇ノ二人山中ニ入テ仙女ニアヒテ半年ノ後カヘリケルニ。七世ノ孫ニアヒク古事續齊諧記ニアリ。其コトモイヘリ。方レトモ半年トアレハ半日ト云ニカナハス。王質ガコトヲ用ユベシ。

丹竈道成仙室靜山中景色月花低。山中 有仙 室 三品

此詩坤元録御屏風ノ詩也。題ハ山中ニ仙人ノ住捨レ跡アルナリ。四韻皆秀句ニテ此朗詠ニ入りヨレ起句也。丹竈トハ丹藥ヲ子ルカドナリ。道成トハ仙術成就シテ昇天シ去タル跡ナレハ仙室ニツカナ也。下句ハ山中ノ景氣モサビクテ月モヤカクフケルサナリ。



月花月ノ光ナリ

石床留洞嵐空拂玉案拋林鳥獨啼

同胸句也

此八上ト同詩也胸句也。上句ハ仙ノオキフシタル床ナク石床留洞ト云ナリ。床ノ塵ヲハラフ人モナケバ嵐ノミヲ拂フト云也。関中記ニ嵩山ニ石室アルニ道士ノアソビシ石床アリト云リ。是ヲ本文ニテ作り下句玉案トハ仙人ノ文机ナリ。仙サリタルアトニ昔シタツサヘシ玉ノツク丑モイタツラニナゲステ。鳥ノ聲ノミヲツツルト云也。サテ石床玉案ハ室ノ心ヲ作レリ洞ト林ハ山中ヲ作レナリ。桃李不言春幾暮烟霞無跡昔誰栖。同腰句也。上句ハ仙ハサリタル古跡ニ桃李花ハ昔モカラス花サケリト也。桃ハ仙境ニヨセアル木ナハカタイリ。彼仙去リテ後幾春カ經タルト花ニ上ル更ニ答スト云也。桃李不言トイハルコトモ本文ニカナヒテイミジキナリ。漢大將軍李廣ト云人武威

ナラヒナカリシガ口ノトゴホリテモノイフコトニシナリシナリ。サハアリシカドモ門前ニ市ヲナシテ車馬戈タユルコトナカリキツレシ史記ニ桃李不言下自成蹊トイヒケリ。花モノイハスト云事ハ是ヨリ云也。大和國龍門寺ハ仙人ノ栖也。辨ヲ我母ト云女房彼寺ニイリタリケルニ桃花サキタリケルヲ見テ古烟ノ花ノモノイフ世ナリ共イカニ昔ノコトヲトハミトヨミケルモ此心ナリ云下句烟霞ガヒリタナヒケドモ主ハアトモトメサハ昔タレスミケルト云事モラスト云ナリ桃李ハ山中ノサニ誰栖石室ノ心ヲ作り

王喬一去雲長新早晚笙聲歸故溪

同結句也

此ハ落句也王喬トハ王子喬ガコト也。又ハ王子晋トモ云周ノ靈王ノ太子也。ゴノミテ笙ヲ吹テ伊水ノホトリニアソビケリ。後ニ仙人ト成テ七月七日ニ倭氏山ニ白キ鶴ニ乗テ來リテ雲ノ中ニ笙ヲナン吹ケル列仙傳ニ見タリ。此心ヲ作レナリ。此山中ノ仙人ヲ王子喬



比テイツカニタ此溪ニカハリコトイヘルナリ

商山月落秋鬢白頰水波揚九耳清

山中自述 後江相公

此詩題山中ニシテ自述上我懐心ヲフルト也。上句商山ト云ハ商洛山也南山也。漢ノ四皓ノカクレ井タリレ山ナリ。月落ハ頰ノ也。月頰ヲ以テヨヒシタケタル事ヲイハント也。古歌ニワガヨノイタクフケニケルカナトヨメル心ナリ。秋鬢白ハ四皓ノヒゲノ白キヲ云也。秋鬢ト云コトハ是モ秋ニヨセテヨヒタケタルコトヲ云也。春夏ハ物ニチサカヘ。秋冬ハチオトワフル故也。鬢字音ハ頰和訓ハモツヒゲトヨム。下句頰水ハ颯ノ名也。又ハ頰川ト云。昔堯ノ帝ノ御代ニ許由ト云賢人アリキ常ニ頰川ノホトリニカクレ居テ世ニツカヘザリキ。帝九州ノ長ニナサン又位ヲモツラントテ召ケレドモナガクニイラサリケリ。アニサヘカルウキコト聞タル耳ナリ上テ。頰川ニユキテ耳ヲアラフヒケリ。其時巢父ト云モノ牛ヲヒキテ此河ニ水ヲカハントシケルニ許由ガ耳ヲ洗フ

ヲ見テ人ハハツ面ヲアラフヒテ後ニ耳ヲ洗キハ何故ニツヅ耳ヲアラフト云ケレハ許由答テ云ク。帝我ヲメシテ九列ノ長ニナサント宣ヘリ。我其聲ヲニケムニ依テカク耳ヲアラフナリト云ケレハ巢父ノシリテ云。楠ノ材木ニヨロキモサカレキ山ノ峯ニオヒスレバ。是ヲクヘキ車ノミチモナクワタスキタヨリモナキユニ。工近ノタクミイニシクエントオモヘドモアタハヌモノナリ。汝モナドカハ深ク隠ズシテ。ウキ世ヘメグリテサヤウノ聲ハ聞ゾト云リ。サテ其耳アラフヒタラシ流ノシミテ水ヲカハハ。牛ノロケカチ下ト云テキテカヘシ。ナカレノ上ニホリテソカヒケル。シカレハ頰水波ニアラフヒテ其耳清ト云ナリ。是ハコノ山中ヲ商山頰水ニタトヘ四皓許由ナドニ身ヲ比シテ山隱ヲ思心ニヤ。醫書中ニ沐浴ニ先洗九耳ヲト云事アルナリ。又吉事ハ右耳ヨリ入。凶事ハ左耳ヨリ入ト云コトモアルナリ。其心ナリ

鹿澗有聲寒溜咽故山無主晚雲孤

山無隱士 紀納言



此詩題山無隱士イヘリ賢王ヲ代ハ隱士モ出ツカヘテ山中ニ在  
心ヤ上句虚澗ハムナシキ谷ナリ。隱士ナクテ只耳ニフル、モノハ寒  
澗ノムセフ音ハカリト也。溜ハタマリニツ也。下句故山ハ昔隱士住  
山ナリ。今ハ主ナシニナコニアタルモノハ晚景ノ孤雲ノ色ノニ也ト云ナリ

通夢夜深蘿洞月尋跡春暮柳門塵

遠念賢七  
風昔三品

此詩題ハ上古ノ賢人ノ風儀ヲシタフ心ナリ。上句ノ心ハコケテホラニ  
シツカニ井テ夜ヲカキ月ノ思ヒ寢ニ上古ノ聖賢ヲ夢ニシ心也。通夢  
ト云コト本文ナリ。後漢ノ遺詔ト云人ヒ子シテ云寐與周公通夢  
靜與孔子同意ト云シトカハ其字ヲ用ラシタルナリ。下句尋跡ハ  
古人ノスミカヲ思ヒタフ心ナリ。柳門ハ陶淵明ガ古事也。前ニ註セリ  
春暮フカクシテ柳門ノ塵ノニアリトナリ

のれくかとも山溪乃菊の露此中ふつちとををぬへつらん  
古今秋下詞去又他言又菊をまけて人のつくわろかそとよわろ

とあり。是寛平の沙時菊合せくさくさふ不盡の露乃やう  
ふ。つろくのゆり物と結接せしむる事ありしこもつ也  
秋乃んハふ祇注ハ一言さふあつたりき牡丹花云他家の  
菊をまけくく人露よぬきて夜を初しころやあり。露乃  
中とハ時のちとつり他言ハ志とありあちとせとつるを  
彼晋乃玉質本ころふ山入をりころふ他家へ入く仙人乃  
困素らつと只志とらん。枝よはく人そる芥の柄乃柄ら  
事ありやう乃ゆ又の心と也。山溪乃菊ハ他菊こも思按仙  
菊乃あつらゆハ彭祖菊を服して七百歳とある事。又蕭  
縣の民の菊也とある。上季とゆらたぐひもあつらやげ衣と  
けり。さう後竟意業難乃種ふと物なれど出あみえんハふ祇  
ハ羽ひくささるあや。只ささあつらりといゆり。跡は後よと  
わきてわきと山溪のさく乃つゆれまふとハ只志とらん。のれくか



あつらひてまて彼を愛が古事などあひなりていふりあまが  
ちとあつらひてまて彼を愛が古事などあひなりていふりあまが

和漢朗詠集卷第六



